

KRV 180

SCOOTER

取扱説明書



NCCの声明

低出力電波放射性電機管理方法

第十二条 型式認証に合格した低出力RFモーターは、会社、商店の使用者が勝手に周波数を変更したり、出力を強化したり当初設計された特性や機能に変更を加えたりしてはならない。

第十四条 低出力RFモーターを使用することで航空機の安全に影響を与えたり合法的な通信を干渉したりしてはならない。干渉現象を発見した場合、直ちに使用を停止するとともに、干渉しないよう改善した上で引き続き使用できる。前項の合法的な通信とは、電信法の規定に基づいて使用される無線通信を指す。低出力RFモーターは通信又は工業、科学及び医療用電機設備が発する合法的放射性電波の影響に耐えなければならない。

NCCラベル情報

コントローラーのNCC情報は添付資料をご参照ください

 CCAN19LP0930T6

ワイヤレスカーキーのNCC情報は添付資料をご参照ください

 CCAN19LP0950T2

ご愛用者のみなさまへ

この度はKYMCO-KRV180シリーズをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

当使用説明書はKYMCO-KRV180シリーズを安全かつ快適にご使用いただくため、正しい操作方法とメンテナンスの調整方法、要点などについて詳しく説明しております。

当車種はバイク環境保護法規排ガス規制基準を満たしており、したがって低汚染、低騒音、省エネという環境保護要件に合致しています。当車は優れた品質を有していますが、最高の性能を維持するため、やはり定期メンテナンスを実施していただく必要があります。

より安全、快適な運転のため、当説明書をよくお読みいただきますようお願いいたします。

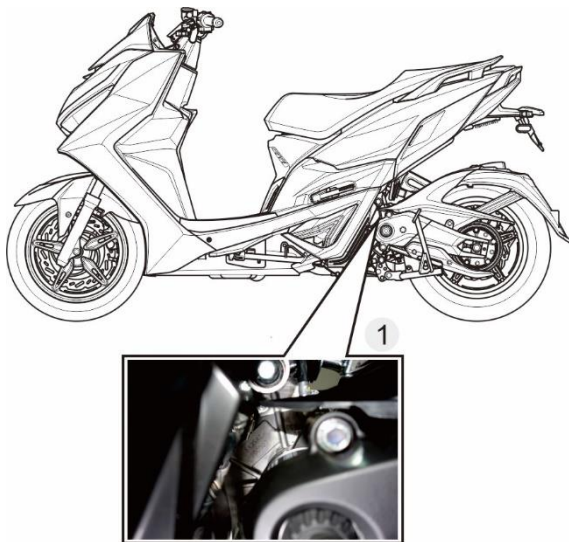
当説明書の内容と実車とが異なる場合、実車の型式を基準とします。

重要な情報

車両識別番号情報

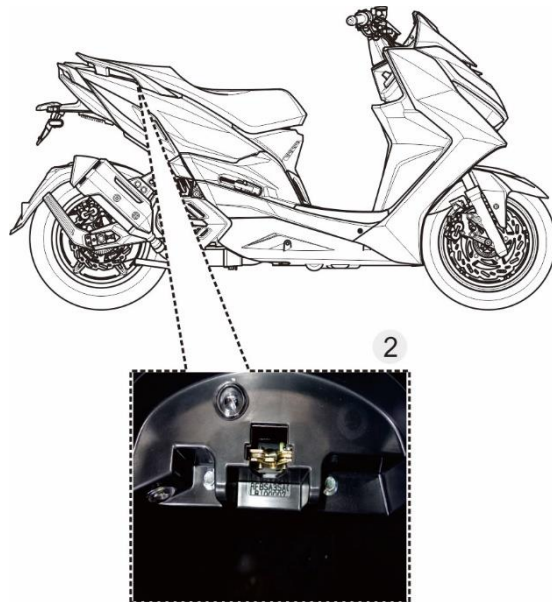
1. エンジン番号：

当バイクのエンジン番号は下図(1)のように左クランクケースの下方に打刻されています。



2. 車台番号：

当バイクの車台番号は下図(2)のようにフレームに打刻されています。

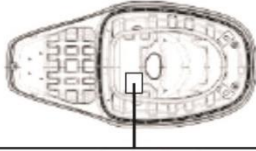


重要な情報

車両排ガス管理情報

当バイクは座席下のヘルメットボックス後方に車両排ガス管理情報に関するステッカーが貼っております。

ステッカーの内容は以下のとおりです：

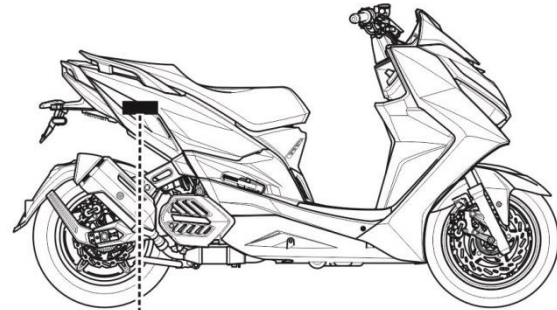


車両排ガス管理情報

会社及び製造業者：光陽工業股份有限公司
エンジンファミリー：G175SA35-21
オンボード診断システム：OBD stage I 排気量：175.. c.c.
汚染排出防止設備の識別番号
—マフラー（触媒コンバーター）AEE2 T7
—含有酸素量センサー AZD4002-XXXXX
—電子コントロールユニット SA35
—蒸発排出制御バルブ 17620-ABA3-900（部品番号）
—クランクケース通気バルブ 1121A-AEE2-900（部品番号）
アイドリング速度：1580±100rpm CO%:-0.3~1.5-（触媒前）
当エンジンファミリーは2021年1月1日実施の排出基準を満たしています。
使用者又は所有者は中央監督官庁の認証を経ずに大気汚染防止設備を解体したり改造したりしてはなりません。

盗難防止用焼印

お客様の愛車の盗難を防ぎ、政府の窃盗犯罪撲滅政策に呼応するため、当バイクはお客様に納車する前に、適切な場所に盗難防止用の焼印を入れます（下図のとおり）。盗難防止用焼印の番号とエンジン番号とは同じです。



盗難防止用焼印

◎当図は範例です。実際の焼印の位置は実際の車両に基づきます。

重要な情報

バイク情報の記録収集

当車種のECUは当バイクの運転に関する情報を収集及び記録でき、車両の故障診断やトラブルシューティングの役に立ちます。

保守点検や修理手順の実行など、これらの情報はKYMCO専用の診断ツールを使用してバイクの診断コネクタに接続することで取得できます。

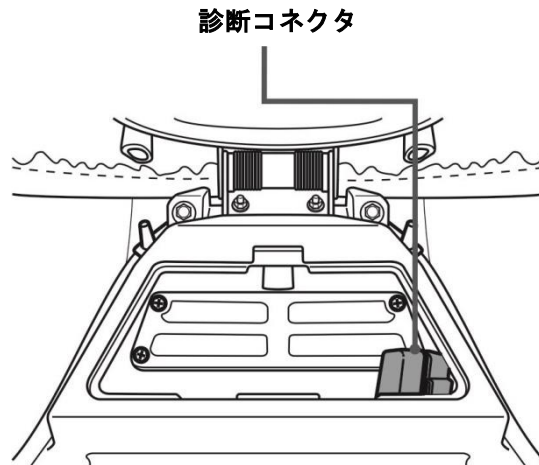
右図のとおりです

KYMCOの機種別のセンサーと記録情報は機種により異なりますが、主な情報は以下のとおりです。

1. バイクの状態及びエンジンの性能情報。
2. バイクの噴射と排気に関する情報。

以下の状況を除き、KYMCOバイクはこれらの情報を第三者に開示することはありません。

1. 車両の使用者及び所有者が同意した。
2. 法的規則で必要になったとき。
3. 訴訟により裁判所に提出するとき。
4. 研究開発用途により、これらの情報内容と個々のバイク又は車主とが無関係の場合。



目次

1. 安全運転のための注意事項

運転前の検査	1
--------	---

2. バイク各部の名称

正面図	8
左側面図	9
右側面図	10

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

メインメーター	11
サブメーター	12
メインスイッチカバーとキー、メインスイッチカバー	13-13
ハンドルロック	15
KEYLESS ワイヤレスキー SA35AC/AFIに適用	16-18
左ハンドルスイッチ SA35AC/AFIに適用	20
追い抜きライトスイッチ、KEYLESSスイッチ、ハイ/ロー ビームスイッチ	20
TCSスイッチ、方向灯スイッチ、クラクションスイッチ	20-21
右ハンドルスイッチ	21
駐車警告灯スイッチ、電機スタートボタン	21
メットボックス内の部品の説明	22
USB充電スタンド	23-23
ABS アンチロックブレーキシステム	25-25
TCS トラクションコントロールシステム	27-27

4. エンジンの起動方法

起動前	29
車両の起動	30-30

5. 正しい運転方法

まずメインスタンドを跳ね上げ、リアブレーキレバーを緩 め	32-33
正しい運転	34

新車エンジンの慣らし運転	35-35
雨天運転、正しい停車のしかた	37

6. 乗車前の検査

乗車前の検査	39
オイルの検査、補給	39-39
ガソリンの検査、補給	40
ハンドルの検査	41
ブレーキの検査/調整、ブレーキオイルの検査/調整	41-42
前後のブレーキパッドの検査	43
タイヤの検査	44
ブレーキランプの検査と調整、方向灯の検査	45
前後緩衝の検査	46
定期検査	47
オイルの交換	48-50
スパークプラグの検査、調整	51
冷却水装置の検査	52

7. 定期及び簡易メンテナンス、故障処理

公害低減定期メンテナンス一覧表	55
バッテリーの検査、ヒューズの交換、エアクリナー	57-58
注意事項車両故障時、	60-60

8. 環境保護機関の紹介とメンテナンス

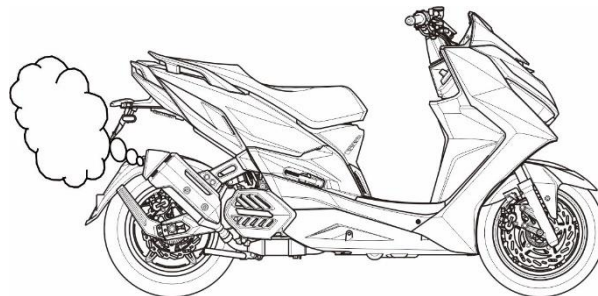
排ガス制御システムのメンテナンスの照会/メンテナンス/ 検査	61-63
蒸発排出制御システム（E.E.C）の照会/検査	64-64

9. 仕様表

1.安全運転のための注意事項

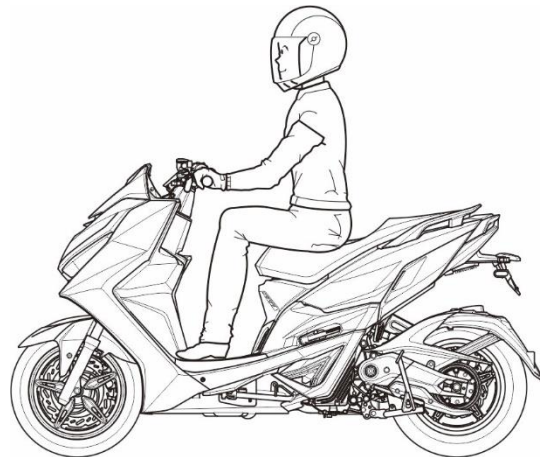
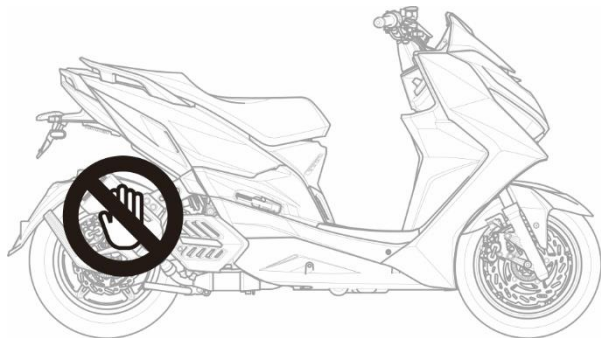
運転前の検査

1. 使用説明書及び注意事項の内容をよくお読みください。
2. ライダーは必ずヘルメット、手袋、ゴーグルなどの装備を着用してください。
3. 安全な運転を妨害するような服装は着ないようにしてください。
4. 袖口が開いているとブレーキレバーに引っかかり、大変危険です。
5. ブレーキレバーの操作を妨げないようにしてください。
6. 日常及び定期検査は必ずおこなってください。
7. タイヤ表面に異物が付着していたり異常な摩耗がないか目視で検査してください。
8. マフラーから排出される排気ガスには身体に有害な一酸化炭素が含まれています。
9. エンジンを始動させる際は風通しの良い場所でおこなってください。



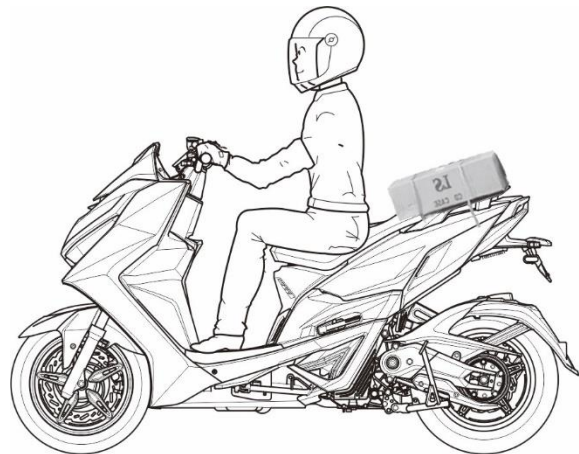
1.安全運転のための注意事項

1. エンジンを切った後のマフラーは高温ですので、触らないようにしてください。
2. バイクを停める際は万が一を考慮し干し草や燃えやすい物から離して停めてください。
3. エンジンを切った後のマフラーは高温ですので、火傷を防ぐため、バイクを停める際はマフラーに人が触れないように停めてください。
4. 運転時は両手でハンドルをしっかり握り、両足はフットレストに置きます。後ろに乗る人は両手でライダーの腰をつかみ、両足はタンデムステップに置いてください。
5. 後ろに乗る人はマフラーが高温になっていますので、乗下車時は火傷をしないようお気をつけください。



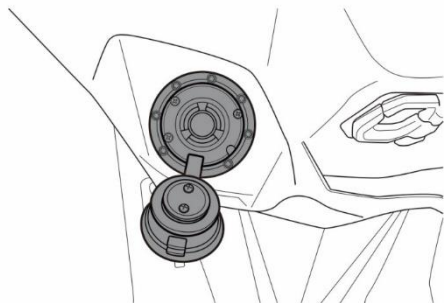
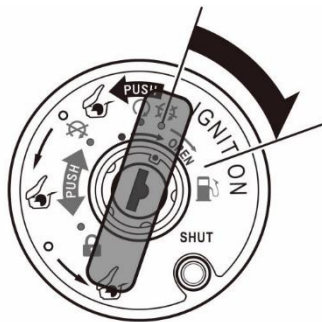
1.安全運転のための注意事項

1. 急に曲がったり片手での運転は絶対にしないでください。
2. 交通ルールは必ずお守りください。
3. 積載物があるのとないのとはハンドル操作の安全性が異なります。
4. 積載物は重量制限を守りしっかり固定し、安全な運転に十分注意してください。



1.安全運転のための注意事項

1. 給油時は火気厳禁です。
2. 給油時はエンジンを切ってください。



3. 車の構造と機能は関係があり、勝手な改造は操作性を悪化させ、車の寿命と安全な運転に影響を与えます。
4. 車の勝手な改造は法律上許可されておらず違法な行為ですのでおやめください。
5. 車を改造されますと、保証の対象外となります。

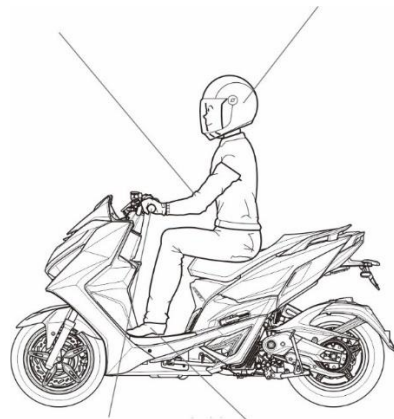
1.安全運転のための注意事項

⚠️ ご注意

- 安全運転にはリラックスした気持ちと快適な服装が重要です。
- 交通規則を守り、焦らず、気持ちをリラックスさせ、安全運転を心がけてください。
- 乗車時は、危険を避けるため、運転を妨げるような服装は控えてください。（ロングスカート、パンタロンなど）
- 乗車中や停車後30分以内はマフラーの温度が高くなっています。火傷を防ぐため直接接触らないようにしてください。
- バイクを停める際は万が一を考慮し干し草や燃えやすい物から離して停めてください。

服装

- 長袖の袖口はしっかり留め、ブレーキレバーに引っかからないようにしてください。
- ヘルメットをかぶるときは安全ベルトをしっかりと締めてください。



- 運転時は両手でハンドルを握るようにし、片手運転は非常に危険ですのでおやめください。
- フラットシューズが安全です。

1.安全運転のための注意事項

積載物

- メットボックスの積載物の最大積載重量は約10キログラムです。
- インナーポケットの積載物の最大積載重量は1.5キログラムです。
- 後部ラックの積載物の最大積載重量は最大5キログラムです。
- ハンドル操作に影響を与えたり、フロントライトを妨げたりして安全運転に影響を与えないよう、インナーポケット、フロントボックス内の物品は飛び出さないようにしてください。
- **総重荷重制限：150キログラム**
 - メットボックスの積載物の容量は約10キログラムです。

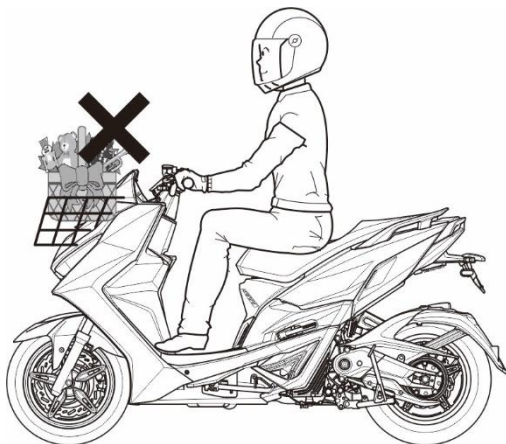


- インナーポケットの積載物の重量は最大1.5キログラムで

す。

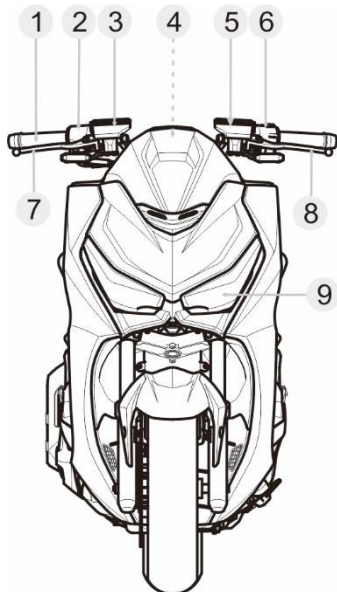
1.安全運転のための注意事項

- バイク頭部にかごやフレームを取り付けることは禁止されています。積載物がバイク頭部にあると、ヘッドライトが遮られ、安全な運転に深刻な影響を与えます。



2.バイク各部の名称

正面図

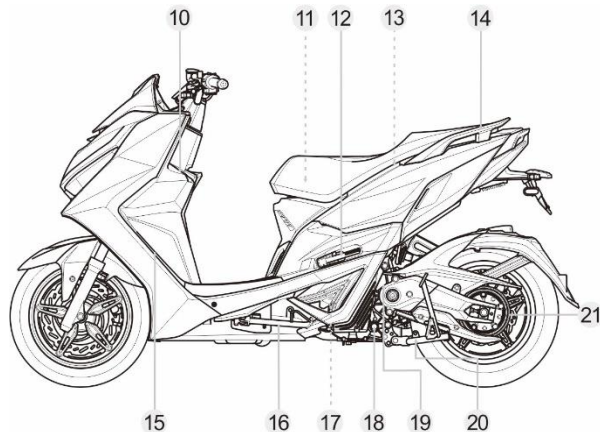


- (1) アクセルグリップ
- (2) 右ハンドルスイッチアセンブリ
- (3) フロントブレーキオイルタンク
- (4) メーター
- (5) リアブレーキオイルタンク
- (6) 左ハンドルスイッチアセンブリ
- (7) フロントブレーキレバー
- (8) リアブレーキレバー
- (9) ヘッドライト

※ お客様の愛車と写真とは型式が若干異なる場合がありますが、実車の型式を基準とします。

2.バイク各部の名称

左側面図

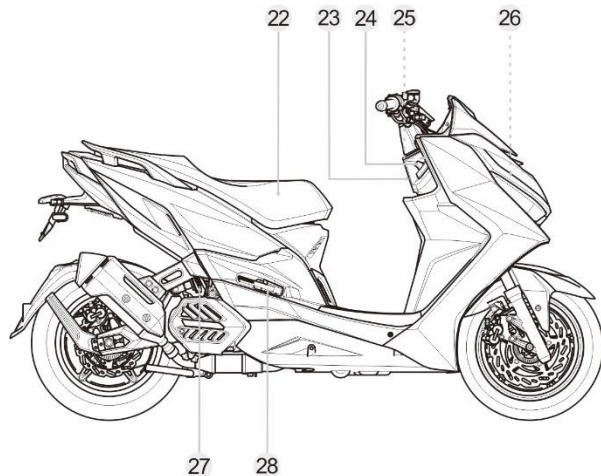


- (10)給油口
- (11)エアクリーナー
- (12)左側タンデムステップ
- (13)メットボックス
- (14)後部フレーム
- (15)冷却水検査ウインドウ
- (16)サイドフレーム
- (17)ラジエター
- (18)オイルウインドウ
- (19)エンジン番号
- (20)メインスタンド
- (21)駆動ベルト

※ お客様の愛車と写真とは型式が若干異なる場合がありますが、実車の型式を基準とします。

2.バイク各部の名称

右側面図



(22)シート

(23)フロントフック

(24)メインスイッチ

(25)USB充電スタンド

(26)バッテリーとヒューズの位置

(27)ショックアブソーバー

(28)右側タンデムステップ

※ お客様の愛車と写真とは型式が若干異なる場合がありますが、実車の型式を基準とします。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

メインメーター

1 スピードメーター

運転速度は時速〇キロメートル(km/h)を基準としています。

2 燃料メーターの表示：

ガソリンタンク内のガソリンの残量を表示します。

3 タコメーター (RPM)：

1分間当たりのエンジンの回転数で、1目盛りは1000rpmを表します。

4 オドメーター：

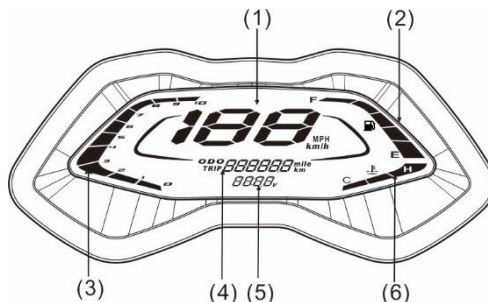
- (1) 累積の走行距離又は単一の走行距離を表し、単一の走行距離はゼロリセットできます。
- (2) 総走行距離はキロメートル(km)で表示されます。
- (3) ADJキーを短く押すとODO→TRIP→オイル交換距離の3種類のモードが切り替わります。
- (4) TRIPモードでの単一走行距離では、MODEキーとADJキーを2秒間押すとゼロリセットできます。

5 バッテリー電圧/時計：

バッテリーの電圧又は時間を表示します。
ADJキーを長押しすると、バッテリーの電圧と時計の表示を切り替えられます。

6 水温計：

水温の高さを表示します。
H(HIGH)：高温
C(COLD)：低温



⚠️ ご注意

- 燃料メーターの表示が1目盛りになりましたら、燃料ポンプが空転し損壊するのを防ぐため、できるだけ早く92以上の無鉛ガソリンを給油してください。
- 時間調整はODOモードでのみ行えます。MODEキーとADJキーを長押しし、数字が点滅したら、ADJキーを押して調整でき、完了後再度MODEキーとADJキーを長押しし、数字の点滅が終了したら調整の完了です。
- メインスイッチを入れた際にバッテリーの電圧が低い(10V以下)、もしくはエンジン始動後バッテリーの電圧が高い(16V以上)場合、直ちに検査を受けてください。
- 運転中に水温がH(高温位置)に達した際は水温の異常を表していますので、まず道路脇の安全な場所に止め、検査するか冷却水を補充してください。エンジンを切り水温が下がるのを待ってから、再度エンジンを始動しすぐに光陽の販売店で修理を行ってください。水温がH(高温位置)に達したまま無理に乗車するとエンジンの故障を招きますので、特にご注意ください。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

サブメーター

1 方向指示灯：

方向灯スイッチを操作すると、指示灯が点灯します。

2 ハイビーム指示灯：

ハイビームに切り替えると、当該指示灯が点灯します。

3 オイル交換指示灯：

車両の走行距離が1000キロメートルに達するごとに、当該指示灯が点灯し、オイル交換が必要であることを表します。

オイル交換距離ゼロリセット：

メインメーターがオイル交換距離モードで、MODEとADJキーを2秒間押すとゼロリセットでき、当該指示灯は消えます。

4 ABS指示灯：

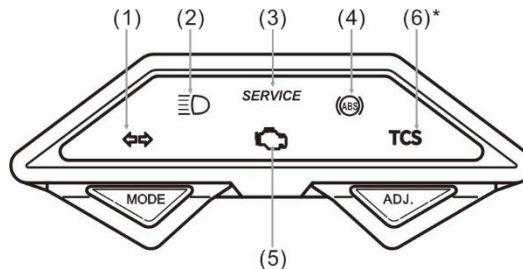
メインスイッチをオンにすると当該指示灯が常時点灯します。車両の走行速度が6km/h以上に達すると、当該指示灯は消えます。

5 エンジン検査灯：

メインスイッチをオンにすると当該指示灯が常時点灯し、エンジン始動後10秒以内に消えると、正常であることを表しています。エンジンを始動しないと引き続き点灯します。エンジン始動後10秒経過しても引き続き点灯している場合、車両の故障を表していますので、販売店で点検修理を行ってください。

6 TCS指示灯 (SA35AC/AFに適用)：

未点灯：TCSは正常ですが、動いていません。
琥珀色のランプが点滅：TCSは正常で、かつ動いています。
琥珀色のランプが常時点灯：TCSの異常です。
緑色のランプが常時点灯：TSCがオフになっています。



*(SA35AC/AFに適用)

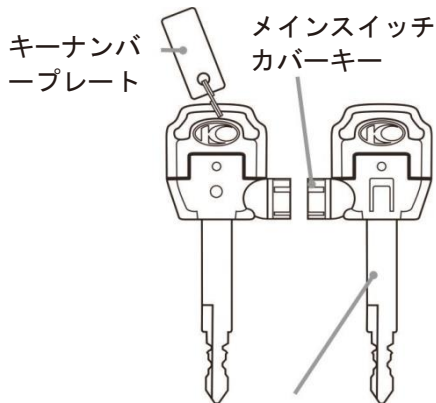
⚠️ ご注意

- オイル交換指示灯は走行距離1000キロメートルごとに点灯します。したがって最初の300キロメートルのオイル交換時には指示灯は点灯しません。点灯しなくてもゼロリセットすることで、指示灯は正確に作用します。
- 車速が6km/h以上でABS指示灯とTCS指示灯が点灯する場合、ABSシステムの異常を表しています。お近くのKYMCO正規販売店で検査を受けてください。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

メインスイッチカバーとキー

(スマートキー未装着車)



メインスイッチキー

⚠️ ご注意

- メインスイッチキー（磁力キー）を紛失した場合、キーナンバープレートにより販売店でお買い求めください。

メインスイッチカバー

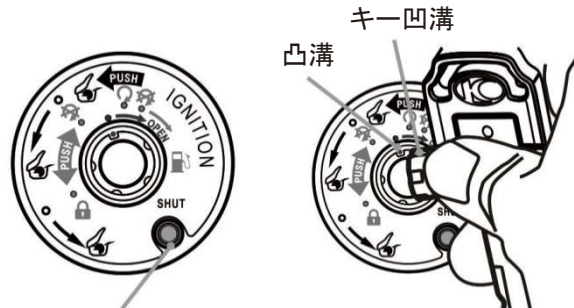
盗難防止のため、駐車時はメインスイッチカバーをロックしてください。

ロックの方法；

メインスイッチカバーのロックキーを押し、メインスイッチカバーをロックします。

解除方法：







メインスイッチカバーロックキーの凹溝に、メインスイッチカバーロックキーの凸溝を入れ、右に回すとメインスイッチカバーが開きます。

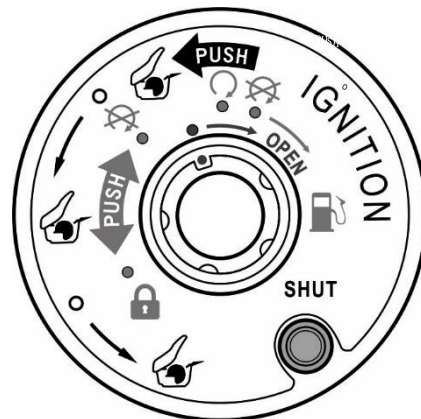


メインスイッチカバーロックキー (SHUT) メインスイッチカバーキー (OPEN)




3. メーター及び各コントローラー機能の操作

メインスイッチの位置 SA35AA/AF/AJ に適用

-  : この位置のときにステアリングをロックします。
-  : この位置のとき、車の電源は全て切断されます。(エンジンが止まる)
-  : この位置のとき、車の電源は全てつきます。(エンジンは始動可能)
- PUSH** : 下に押して回すことが必要であることを表しています。
-  : シートを空ける符号。
-  : ある段階を表します。
-  : ガソリタンクキャップを開けます



警告

- 運転中はメインスイッチを  か  の位置にしないでください。事故発生の主な原因になります。
- メインスイッチを  の位置にしたとき、ヘッドライト、フロントポジションライト、リアライト及びナンバープレートライトが点灯します。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

ハンドルロック🔒

盗難防止のため、駐車時はハンドルをロックしてください。

ロックの方法；

ハンドルを左側いっぱい倒し、キーを押しながら左に「🔒」の位置まで回し、キーを抜き取りま

解除方法：

キーを「🔒」から押しながら右へ「🚫」の位置まで回すとロックが解けます。



⚠️ ご注意

- ハンドルが「🔒」の位置にあるときに軽く動かしてロックされているか確認します。
- 駐車するときは交通の邪魔になるところにバイクを停めないようにしてください。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

KEYLESS ワイヤレスキー SA35AC/AFに適用

KEY LESSはハイテク製品で、キーを必要としない電子式のメインスイッチです。

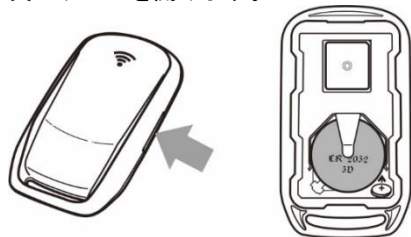
各車両にはいずれもワイヤレスキーが2組ずつ配備されていますので、大切に保管してください。

ワイヤレスキーを紛失されますとKEYLESSメインスイッチで開けられなくなります。

ワイヤレスキーの保管には十分ご注意ください。

ワイヤレスキーの電池交換

適切な工具でケースを開けます。



ワイヤレスキーの電池タイプ：CR2032。

⚠️ ご注意

- 電池を取り付ける際は極性にご注意ください。
- 故障する恐れがありますので、内部の回路や端子に触れないでください。
- 電池を交換する際は、ワイヤレスキーに過度な圧力を加えないでください。

⚠️ ご注意

- ワイヤレスキーを2組とも紛失又は損壊した際は、販売店で検査し交換してください。
- ワイヤレスキーの電池が消耗しますと、センサーの距離が縮まりますので、すぐに電池を交換してください。
- 電子医療機器をお使いの場合は、ご使用前に医師又はデバイスメーカーに無線伝播が影響しないかお問い合わせください。
- 機能や動作に影響を与えますので、ワイヤレスキーを強いワイヤレス電波にさらさないでください。
- 機能や動作に影響を与えますので、ワイヤレスキーを金属製の物で触れさせたり覆ったりしないでください。
- 湿気が多い場所や高温の場所にワイヤレスキーを置かないでください。
- ワイヤレスキーには精密な電子部品が含まれています。故障や損壊を防ぐため、以下の事項にご注意ください。
- ワイヤレスキーをメットボックス内に置いたり保管したりしないでください。路面の震動や過熱によりワイヤレスキーが損壊する恐れがあります。
- ワイヤレスキーを落としたり、曲げたり、強い衝撃を加えたりしないでください。
- ワイヤレスキーを水又は他の液体内に浸さないでください。
- ワイヤレスキーに重い物を乗せたり強い圧力をかけたりしないでください。
- ワイヤレスキーを直射日光の当たる場所や高温多湿な場所に置かないでください。
- ワイヤレスキーを研磨したり変更を加えたりしないでください。
- ワイヤレスキーをキーホルダー、スタンガンやPCなど強い磁場や磁性物から遠ざけてください。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

KEYLESSセンサーの距離 SA35AC/AFに適用

1. 遠距離アンテナセンサー（単一の見晴らしの良い場所）：
1.5メートル以内が最も感度の良い距離で、3.5メートルを超えると反応しなくなります。
2. 近距離アンテナセンサー（単一の見晴らしの良い場所）：
近距離センサー符号に近づいたときに反応します。
 - 最も感度のよい距離は150センチメートルですが、実際のセンサー距離は環境の差や電池の残量により異なります。
 - バイクから離れる際は、ハンドルが固定されていることを確認したうえでKEYLESSシステムをオフにし、ワイヤレスキーは常に携帯してください。

近距離センサー

ワイヤレスキーの電池残量がなくなり開錠できない場合、近距離センサーを使用して開錠できます。ワイヤレスキーはインナーポケット右側、USB充電スタンドの下方に貼り付けます（近距離センサー符号）。



近距離センサー符号

⚠️ ご注意

- ワイヤレスキーの電力が弱まりますと、リモートセンサーの距離に影響を与えます。
- 電池交換時には、不正な操作によりリモコン機能を損なうことを避けるため、専門のサービスステーションに依頼してください。
- センサー距離は参考であり、KEYLESSキーと組み合わせで電源を起動する必要があります。
- ワイヤレスキーは無線電波技術を使用しており、操作範囲は周囲の使用環境の影響を受けます。ワイヤレスキーを後部荷物ボックスやインナーポケットに置いておくと、ワイヤレスキーの通信に影響を与え、センサー不良などの現象を引き起こす場合があります。
- ワイヤレスキーの電池残量がなくなると、センサー範囲に影響を与え、リモート検知機能が失われたりします。その際は近距離センサー機能を使用し、ワイヤレスキーをインナーポケット右側の近距離アンテナ検知範囲に貼り付け、キーを押すと短いピー音が2回鳴り、メインスイッチの青いLEDが点灯し、ロック解除動作を完了します。
- ワイヤレスキーは常に身に着け、インナーポケットやバイク上に置かないでください。
- ワイヤレスキーが操作可能範囲に入ると、他のワイヤレスキーを持たない人もセンサー範囲内でエンジンを起動しバイクに乗ることができます。
- ワイヤレスキーがセンサー距離内にない場合、車両は起動できない状態にあります。
- ワイヤレスキーはセンサー距離から離れていても、依然として電池を消耗します。KEYLESSメインスイッチを操作できない場合、直ちにワイヤレスキーの内部電池を交換してください。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作



KEYLESS 操作 SA35AC/AFに適用

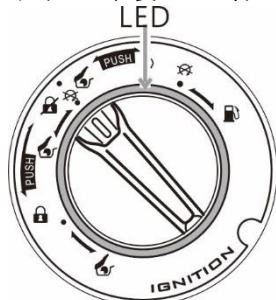
ワイヤレスキーを所持し、かつセンサー範囲内にいること(身分の識別)

始動

KEYLESSキーを長押しすると、メインスイッチの青色LEDが点灯し、短いピー音が2回鳴り、メインスイッチを回すことができます。


シャットダウン

メインスイッチを「」又は左側の「」に回し、KEYLESSキーを長押しすると、青色LEDが赤色LEDに変わりシャットダウンし、長いピー音が1回鳴ります。






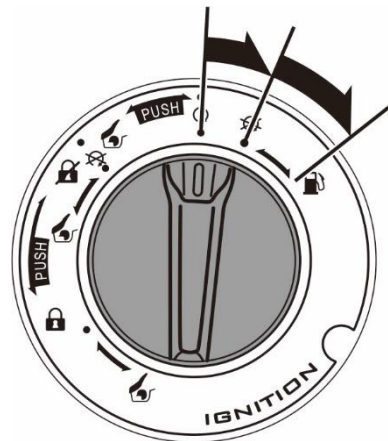
ご注意

- バックライトが正常に点灯しないか消えている場合、直ちにKYMCO販売店で検査してください。

- 乗車中にスイッチを「」の位置に回さないでください。電力システムが消え、バイクのコントロールができなくなり大変危険です。




給油



「」を「」の位置まで右に回し、再度「」の位置まで回すと給油キャップが開きます。

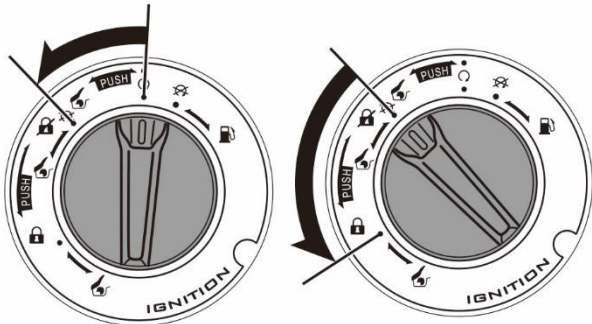



3. メーター及び各コントローラー機能の操作

ロック SA35AC/AFに適用


車両を停止しその場を離れたい場合、KEYLESSメインスイッチを「」から「」又は「」の位置まで左に回し、再度KEYLESSキーを押すと、メインスイッチカバーのLEDが青から赤に変わり消灯するとともに長いピー音が1回鳴り、ロック動作を完了します。

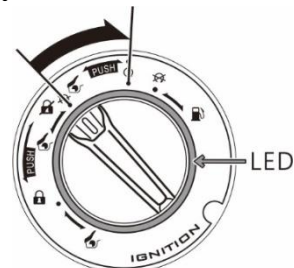
メインスイッチつまみが左側「」又は「」にあり、ワイヤレスキーセンサーが範囲内にあると、自動的にロックされます。






*ハンドルを左側いっぱいに戻し、メインスイッチを内側に押すと「」まで回ります。

ロック解除 SA35AC/AFに適用

KEYLESSキーを長押しし、青色LEDが点灯し短いピー音が2回鳴ると、「」の状態に変わり、エンジンを始動できます。

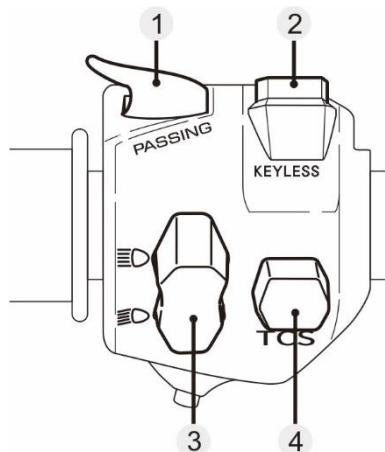


⚠️ ご注意

- ハンドルをロックする際は、メインスイッチを「」まで回しKEYLESSシステムをシャットダウンし、ハンドルがロックされていることを確認してから車両を離れることができます。
- 駐車する際は、交通安全を妨害しない場所に停車してください。
- 車両をシャットダウン及びロックする動作は必ず「」又は左側「」の位置で操作を行ってください。正確な位置でロックを行わないと、ロックできず盗難に遭う恐れがあります。
- 車両を離れる際は、盗難防止のため、メインスイッチLEDが消灯したか注意するとともに、ロックされていることを確認してください。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

左ハンドルスイッチ SA35AC/AFに適用



- (1) **パッシングライトスイッチ**
このボタンを押している間のみ、ハイビームライトが点灯します。
- (2) **KEYLESSスイッチ**
操作はP17をご参照ください。
- (3) **ハイ/ロービームスイッチ**
☰☷: ハイビームスイッチ。
☷☷: ロービームスイッチ。
- (4) **TCSスイッチ**

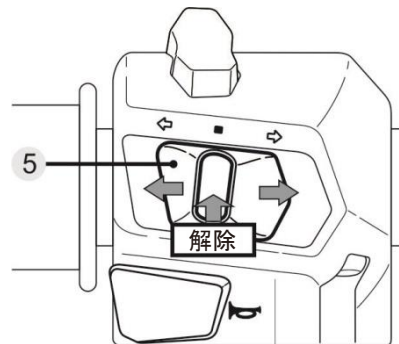
(5) 方向灯スイッチ

曲がったり車線を変更する際は、方向灯を使用し、スイッチを切ると方向灯は消灯します。


⇐: この位置は左折時に使用します。

⇒: この位置は右折時に使用します。

- 解除する際は方向灯スイッチを押し込みます。




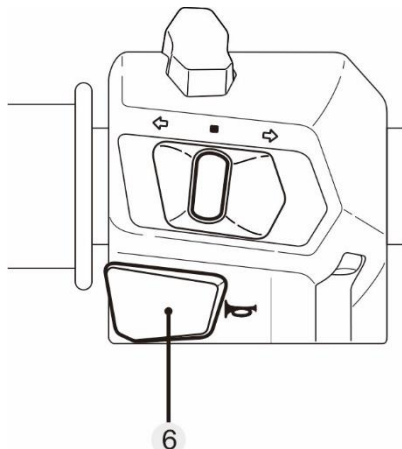
⚠️ ご注意

- 方向灯は自動では解除せず、使用後は元に戻す必要があります。元に戻すことを忘れると安全に影響を与えます。
- メインスイッチが「」の位置にあるとき、方向灯は作動しません。

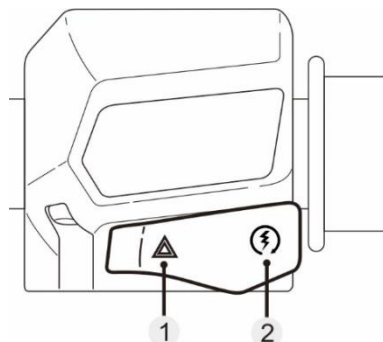
3. メーター及び各コントローラー機能の操作

(6) クラクションスイッチ

メインスイッチが「」の位置でクラクションスイッチを押すと、クラクションが鳴りません。



右ハンドルスイッチ



(1) 駐車警告灯スイッチ(SA35AC/AFIに適用)

このスイッチを押すと、前後の方向灯が点滅します。

(2) スタートボタン

スタートを使用する際は必ず前又は後ろのブレーキレバーを引いて電源を接続してから、エンジンを始動してください。

ご注意

- メインスイッチが「」の位置にあると、故障警告灯は作動しません。

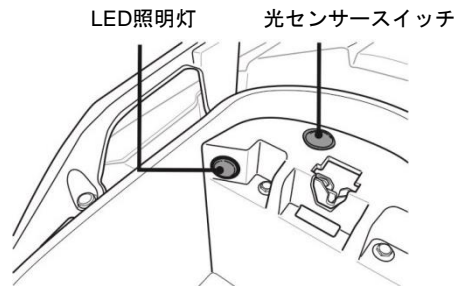
3. メーター及び各コントローラー機能の操作

メットボックス内の部品の説明

照明灯(SA35AC/AFに適用)

シートを開けるとこのライトは点灯し、シートを閉めるとこのランプは消灯します。

(メットボックス内には光センサースイッチがあり、使用者が閉めるのを忘れてたりしっかり閉めなくても照明灯は数分後には自動消灯し、バッテリーの過度な放電を防ぎます)。



⚠️ ご注意

- メットボックスの最大荷重は10キログラムです。
- シートは確実にロックしましたか？
- エンジンの温度は高いので、耐熱性が低い物品又は食品及び可燃性の物品は中に入れてください。
- 貴重品及び破裂しやすい物は中に入れてください。
- 洗車時は水が入る場合がありますのでご注意ください。

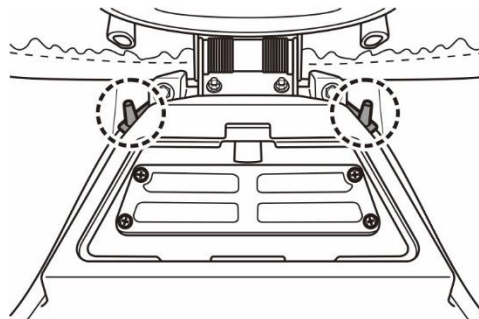
ヘルメットフック

使用方法：

1. シートを開け上に持ち上げます。
2. ヘルメットをフックに掛けます。
3. シートを下げ、シートの後ろ側を押してロックします。

外し方：

使用方法に基づき、シートを開けてからヘルメットを取り出します。

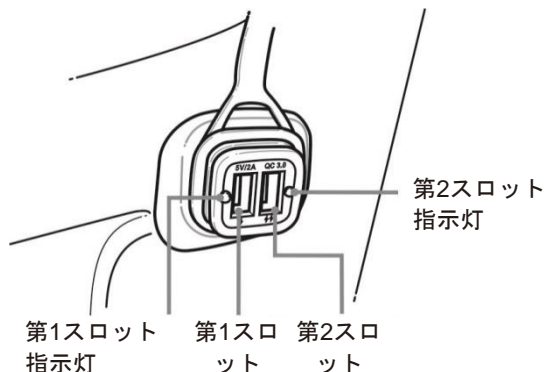


⚠️ ご注意

- 運転時は、部品や外観を損壊し、安全な運転に影響を与えないよう、ヘルメットはフックに掛けたままにしないでください。
- キーをメットボックスに入れたままロックしないでください。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

USB充電スタンド (SA35AC/AFに適用)



(1) 出力電圧

第1スロット：DC5V \pm 10%

第2スロット：DC5V \pm 10% (QC3.0モード未起動時)

DC3.6~12V (QC3.0モード起動時)

(2) 出力電流 (最大負荷)

第1スロット：定格2.1 \pm 0.2A、2.3A \pm 0.3を超えると出力切断。

第2スロット：定格3.1 \pm 0.2A、3.3A \pm 0.3を超えると出力切断。

(3) LED指示灯 (1スロットのUSBLED指示灯1個が対応)

- A. 無負荷時、LEDは点灯しません。
- B. 負荷時、LEDは常時点灯し、正常な状態 (充電中) であることを表します。
- C. 過負荷時、LEDは30秒間点滅し (0.5Hz)、異常な状態であることを表します (判定基準1によります)。
- D. 短絡時、LEDは30秒間点滅し (0.5Hz)、異常な状態であることを表します (判定基準1によります)。
- E. 入力電圧が低く、出力が負荷状態のとき、LEDは10秒間点滅し (1Hz)、異常な状態であることを表します (判定基準2によります)。
- F. 入力低電圧警告、デュアルスロットUSBの場合、両側のLEDが同期して点滅しません。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

判定基準1：

- A. 出力に過負荷（短絡）が発生すると、電源を遮断（出力を切断）し、LEDが点滅し警告しますが、その時間は約30秒です。
- B. 警告灯は30秒間注意を促し、過負荷（短絡）が排除されると、直ちに点滅を停止し、3秒以内に正常な状態に復帰します。
- C. 警告灯は30秒間注意を促した後、過負荷（短絡）が排除されていなくても、再度点滅はしません。

判定基準2：

- A. 製品の充電に使用し、入力電圧が継続して20秒間仕様値を下回ると、LEDが点滅して警告しますが、その時間は計10秒です。
- B. 警告灯は10秒以内で注意を促し、負荷が除去されると直ちに点滅を停止します。
- C. 警告灯は10秒間注意を促した後、負荷が排除されていなくても、再度点滅はせず、電源を遮断（出力を切断）します。

ご注意

- 本製品は使用中に若干熱を発生することがありますが、これは正常な現象です。
- 本製品はメインスイッチがオンになっていれば、エンジンを始動していなくてもUSB充電が行えます。ただしバッテリーの電圧が低すぎると、[判定基準2]の状況が発生し、メインスイッチをオンにし充電ランプが赤に変わるまでの時間が、モバイルによって異なってきます。

- バッテリー電圧の低下を避けるため、エンジンを始動してからUSB充電スタンドを使用することをお勧めします。
- USBタップの使用は禁止します。（例：1対2又はそれ以上のタップを使用して充電すると、過負荷が発生し危険です。）
- USB充電スタンドを分解したり改造することは、漏電及びそれに関する危険を招きますので、絶対におやめください。
- USB充電スタンドを使用して充電中に、バッテリーの電圧が不足すると、指示灯が注意を促し、10秒間警告した後直ちにシャットダウンします。
- 純正以外の製品を使用すると正常な充電が出来ない恐れがありますので、製品純正の充電ケーブルを使用して充電を行うことを推奨します。
- 純正以外のバッテリーでは充電効率が低下したりライトの動作異常を招く恐れがありますので、純正のバッテリーを使用し最良の充電効率を得よう推奨します。
- 短絡（赤ランプが点滅）が発生すると、充電スタンド内部の水分が凝結する場合がありますので、USB充電ケーブルを何度か抜き差しして水分を除去してください。
- モバイルの充電中にバックグラウンドモード（ナビゲーションAPPなど）を実行すると、モバイルがフル充電になった際に、赤と緑のランプが交互に点滅する場合があります。
- モバイルとモバイルバッテリー以外の電子デバイスは当該充電ポートを使用して充電することはできません。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

KYMCO ABS アンチロックブレーキシステム



ABSブレーキ指示灯：

指示灯はメインスイッチ始動後に点灯しますが、自動的に消灯はせず、エンジン始動後運転速度が6km/hに達すると、ABSブレーキ指示灯は消灯します。

ABSシステムに異常が発生すると、ABSブレーキ指示灯が点灯し、その際ABSシステムは機能しなくなることがありますが、慌てる必要はなく、元のブレーキシステムは依然として正常に機能しています。

ABSの紹介

道路状況により急ブレーキが必要となった場合、ABSシステムは急ブレーキによるタイヤのロックを防ぎ、順調に方向転換できるようにします。ABSシステムはブレーキの力を自動的に制御し、タイヤの滑りを減らします。

ABSシステムはブレーキ距離を短縮するものではありません。柔らかく平坦ではない道路や下り坂を走行していると、ブレーキ距離はABSシステムを搭載していない車両より長くなります。したがってABSシステムは平坦な路面を走行中に、その機能を最大限発揮できます。

ABSシステムはABS ECUと前後輪速度センサを備えており、メーカーが要求する仕様を満たさないタイヤを使用すると、速度センサーの判断に影響を与え、ABSシステムの動作に異常をきたす場合があります。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

ご注意

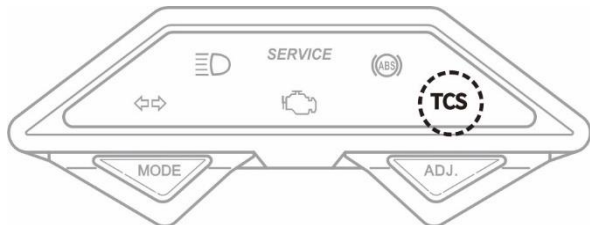
- ABSシステム作動中、ブレーキレバーに若干振動を感じる場合がありますが、これは正常な現象です。
- 車両の速度が10km/h以上に達すると、ABSシステムが作動を始め、速度が10km/h以下になるとABSシステムは動作しなくなります。
- バッテリーが失効したり故障したりすると、ABSシステムの機能は失われ、ABSブレーキ指示灯が点灯します。
- 走行を始めるとABS指示灯とエンジン検査灯は自動的に消灯します。その際停止しメインスタンドを立て、3秒以上アイドリングを行うとABS指示灯とエンジン検査ランプが点灯することがありますが、これは正常な現象です。
- TCS機種について、メインスタンドを立て、給油ドアを開け、TCSを60秒以上継続作動させると、TCS機能は自動的に停止し、サブメーターのエンジン検査灯、ABS指示灯、TCS指示灯（琥珀色）が同時に点灯します。TCS機能をオンにするには、車両を停止状態に保ち、エンジンのアイドリング中に再度TCSスイッチを押し、最後にメイン電源スイッチをオフにした後5秒間お待ちいただき再度オンにし、この手順を4回繰り返すことで正常な状態に戻すことができます。
- ABSランプが消えない場合、KYMCOの販売店で検査を受けてください。

警告

純正仕様サイズのタイヤを使用しないと、ABSアンチロックブレーキシステムが正常に動作せずライダーが事故に遭う場合があります。したがって必ず光陽が指定した仕様のサイズのタイヤをご使用ください。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

KYMCO TCS 追跡制御システム (SA35AC/AF に適用)



TCS動作指示灯：

- 点灯しない：TCS機能は起動し正常ですが、作動していません。
- 琥珀色のランプが点滅：TCS機能は起動し正常に作動しています。
- 琥珀色のランプが常時点灯：TCS機能は起動していますが異常です。
- 緑色のランプが常時点灯：TCS機能は起動していません。

TCS機能をオフにする

メインスイッチをオンにし、TCSスイッチを押してTCS機能をオフにします。

TCS機能をオフにすると、TCS指示灯は緑色に点灯します。

⚠️ ご注意

- TCS機能がエンジン始動前にオフになっていた場合、乗車時にTCS機能をオンにできません。
- TCS機能がすでにオンの状態で乗車している場合、TCS機能はオフにできません。

エンジン始動後TCS機能をオフにしたい場合は、以下の手順で操作してください。

1. 車両を停止させます。
2. 車両をアイドル状態に保ちます。
3. TCS機能をオフにします。

3. メーター及び各コントローラー機能の操作

TCSの紹介

乗車時にスロットルバルブが開き過ぎたり、雪で覆われたり湿った路面など光沢のある表面を走行する際、後輪がコントロールを失い滑る場合があります。TCSは上述の状況においても車両が地面を捉えるようサポートします。

後輪が滑り始めたことをセンサーが感知すると、TCSはエンジンの回転速度を調整し、後輪が地面を掴む力を回復します。TCSがエンジンの回転速度を調節する際は、エンジンからのフィードバック感やマフラーの音波を正常な乗車時と比較します。

寒い日にエンジンを始動する際に暖機運転する必要がある場合は、始動前はTCS機能をオフにし、始動後に改めてTCS機能をオンにすることを推奨します。

警告

- TCSは安定した運転操作に取って代わるものではありません。ライダーが高速でコーナーに入ったり、険しい坂道で急加速や急ブレーキを掛けたりする場合、TCSは地面を捉えたり、前輪の滑りを避けたりできなくなります。したがってライダーがTCSを配備した車両に乗車する際は、通常車両と同様、運転操作に注意し、滑りやすい路面は避けるようにしてください。
- 指定された仕様に合致したタイヤを装備してください。サイズの異なるタイヤを使用するとTCSが正常に作動せず、危険を招く場合があります。

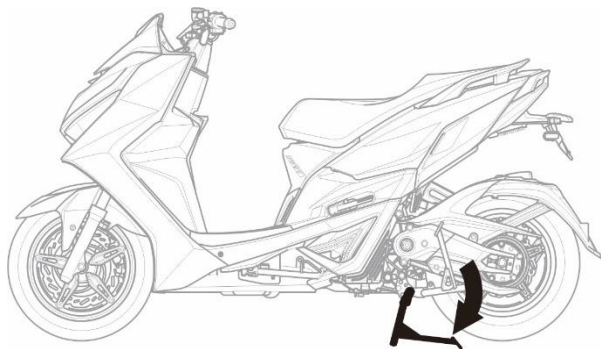
ご注意

- 駐車時の空押しで走行前
TCSを60秒以上作動させると、機能は自動的に取り消され、琥珀色のランプが点灯しますので、車両をアイドリングの状態に保ち、静止させてから切り替えることができます。
その際ABSの前輪速度の故障が触発されると、TCS機能が取り消され、同時にエンジン指示灯、ABS指示灯、TCS琥珀灯が点灯しますので、必ずメイン電源をオフにし、5秒後に再起動させ、この手順を4回繰り返すことで正常な状態に回復します。
- 車両が泥地や砂地など表面が柔らかく不安定な路面に入ると、TCS機能はオフになり、後輪の脱出がしやすくなります。
- センタースタンドを立てた状態で長時間スロットルバルブを開いた状態にするとスパークプラグが湿り、指示灯が琥珀色に点滅します。
- バッテリー異常を感知するとTCSは作動できず、指示灯は琥珀色に点灯します。

4. エンジンの起動方法

起動前

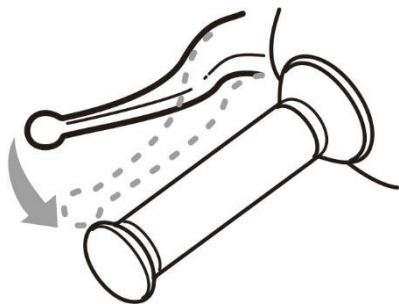
- 起動する前にオイル、ガソリンを点検します。
- エンジン起動時はメインスタンドを持ち上げます。



4. エンジンの起動方法

車両の起動

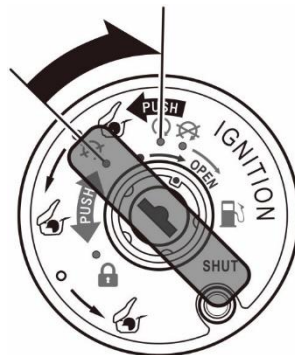
リアブレーキレバーをしっかりと握ります。



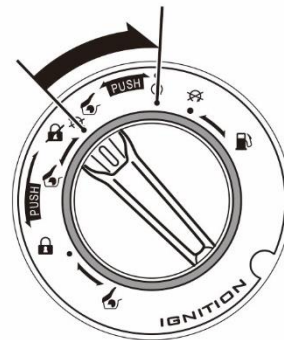
警告

- 起動後、車が急に飛び出すのを避けるため、必ず後輪はロックしてください（リアブレーキレバーをしっかりと握ってください）。
- リアブレーキレバーの遊びが正しくないと、後輪のロックができず危険です。

メインスイッチを「」の位置まで回します。




(SA35AA/AF/AJに適用)



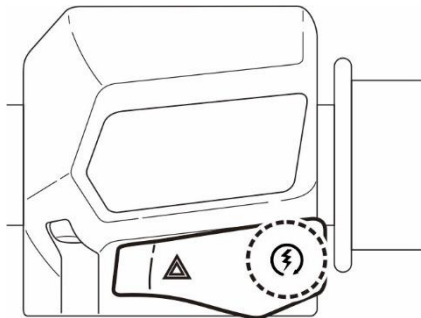
(SA35ACに適用)

ご注意

- キーを「」の位置に回し、クラクション又は方向切り替えランプスイッチを押すと、クラクション又は方向切り替えランプが作動します。

4. エンジンの起動方法

アクセルグリップを回す必要はなく、電動スタートボタンを押すだけでエンジンは始動します。



エンジンが冷えた状態で始動させた後は短時間（約1-2分間）の暖機運転が必要です。高山地区や低温地区では暖機運転（約3-5分間）を行うことで、エンジンの運転と乗り心地を良くします。

⚠️ ご注意

- エンジンが始動したら手はすぐに電動スタートボタンから離してください。
- エンジン運転中は、エンジン部品を損壊する恐れがありますので、電動スタートボタンに触れないでください。
- 排出される排気ガスには人体に有害な一酸化炭素が含まれていますので、狭い場所や換気の悪い場所では始動しないでください。

5.正しい運転の仕方

まずメインスタンドを跳ね上げます。

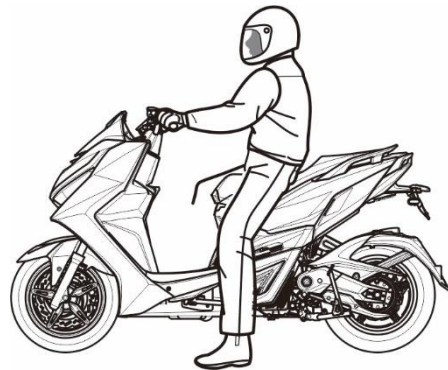
リアブレーキレバーをブレーキ状態に保ち、車両を前に進めると、メインスタンドは自動的に跳ね上がります。



 警告

- エンジンを始動し運転するまでは、危険発生を避けるため、エンジンの回転数を故意に上げないでください。

左側から乗車し、確実に座ってから、左足を地面につけ転倒を防ぎます。



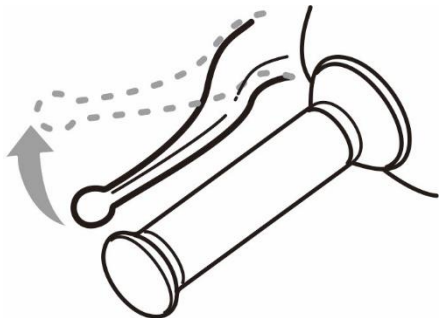
警告

 警告

- 運転前、リアブレーキレバーはブレーキ状態を保ち、エンジンの回転数を任意に上げないようにしてください。

5.正しい運転の仕方

リアブレーキレバーを緩めます。



警告

- ブレーキを解除した後、エンジン回転を急激に上げないでください。車両が前に飛び出し大変危険です。

アクセルグリップをゆっくりと回すと
車両は徐々に走行します



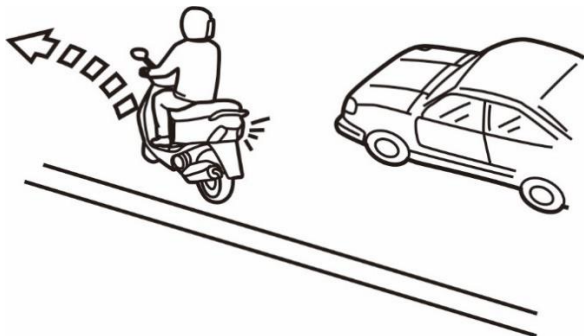
ご注意

- 車両が急に飛び出しますので、アクセルグリップは急に回さないでください。

5.正しい運転の仕方

正しい運転

出発前にまず方向灯をつけ、後方の安全を確認してから運転を始めます。



車速の調節

速度の調節はアクセルグリップでコントロールします。

回す 速度が早くなります。

ゆっくりと加速します。

始動時や上り坂では、アクセルグリップを徐々に回転すると、馬力が強くなります。

元の位置に戻す 速度は遅くなります。

戻す際の動作は素早く行います。

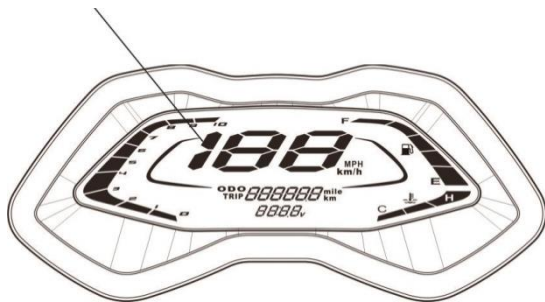


5.正しい運転の仕方

新車エンジンの慣らし運転

- 新車エンジンの慣らし運転は1500キロメートル (km) までで、時速80キロメートル(km)以下を保ってください。
- 急加速を避けてください。

時速80キロメートル



警告

- 慣らし運転時期に高速で運転しますと、エンジン部品の損壊を招く恐れがあります。

ブレーキをかける際は前後のブレーキを同時に使用します。

- アクセルグリップをオフの位置に戻し、前、後のブレーキを同時に作動させます。
- ブレーキをかける際はフロントブレーキレバーとリアブレーキレバーを最初は「ゆっくり」と、その後強く握るのが理想的なブレーキの方法です。

警告

- 片側のみブレーキをかけるとバイクが倒れやすく不安定になるのでご注意ください。
- 走行中は、急ブレーキの使用を避けてください。滑って転倒する恐れがあり大変危険です。

5.正しい運転の仕方

急ブレーキ、急ハンドルはおやめください

急ブレーキ、急ハンドルは横滑りや転倒の原因になり、大変危険です。



雨天時は特に運転にご注意ください。

- 雨天時の路面は晴天時と異なり、ブレーキ距離が長くなり速度が落ちにくいです。ブレーキをかける際は早めにかけてください。
- 下り坂ではアクセルグリップはオフの位置に戻し、断続的にブレーキをかけ、ゆっくり運転してください。




5.正しい運転の仕方

正しい停車のしかた

停車場所に近づいたとき

- 早めに方向灯を点灯し、後方、側方の車両に注意し、ゆっくり停止します。
- アクセルグリップを元の位置に戻し、前後のブレーキを早めにかけます。その際後部ブレーキランプが点灯し、後続の車に警告します。

車両が完全に止まってから

方向灯スイッチを元の位置に戻し、メインスイッチパネルを「」の位置にします。



(SA35AA/AF/AJに適用)



(SA35ACに適用)



警告

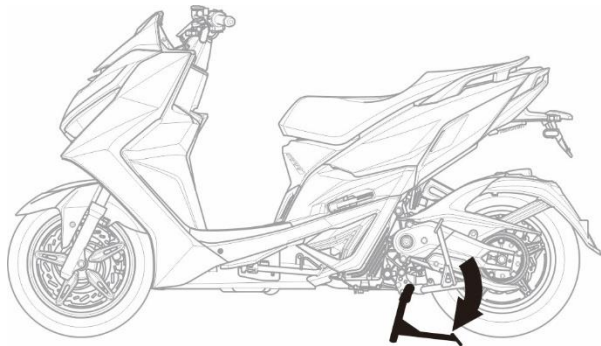
- 走行中はメインスイッチキーを操作しないでください。電気システムの全てが作用しなくなり事故が起きやすくなります。必ず車を停めてから操作するようにしてください。

5.正しい運転の仕方

駐車時

- 人は左側の平坦な地面に立ちメインスタンドを立てます。
- 交通の妨げにならない平坦な地面でメインスタンドを立てます。
- 平らでない地面は車両が転倒しやすくなります。
- 左手はハンドルを握って真っ直ぐにし、右手はシート下部の手すりを引き、右足でメインスタンドを踏みながら右手に力を入れて持ち上げます。

- 盗難を防止するため、駐車時はハンドルをロックし、キーを抜いてください。



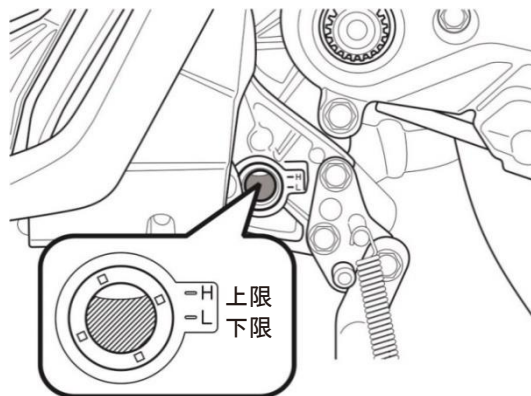
6. 乗車前の検査

乗車前の検査

- 乗車する前に検査する習慣をつけます。
- 安全と車両故障や事故を防ぐため、必ず事前の検査を行ってください。
- 難しくなく、また面倒でないものは運転前に検査し、異常を発見した際は販売店で修理を行ってください。

オイルの検査 補給

メインスタンドを立て、オイルの量を検査し、油面が下限に近づいている際はオイルを上限と下限の間になるように補充してください。



⚠️ ご注意

- エンジン、マフラーの温度は高いので、オイルを検査する際は火傷にご注意ください。

6. 乗車前の検査

ガソリンの検査、補給

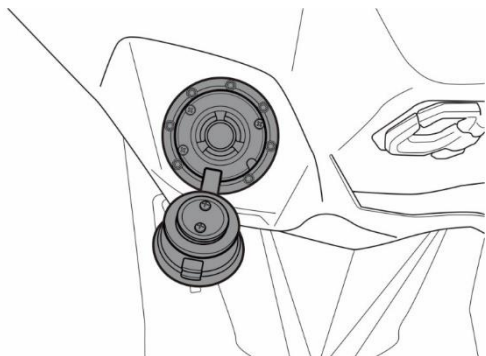
- ガソリンメーターが指示ブロックに近づき、残り1目盛りになったら、早めに給油してください。
- できるだけ早くオクタン価92以上の無鉛ガソリンを補給してください。

ガソリントankキャップの使用方法：

1. まずエンジンを切ります。
2. メインスイッチキーを右に回すと、ガソリントankキャップが開きます。

(無鉛ガソリンをご使用ください)

3. 給油が完了したら、ガソリントankキャップを確実に締めてください。



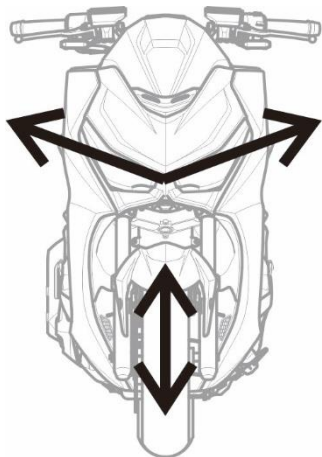
警告

- 給油時は火気厳禁です。
- 給油時はエンジンを切ってください。
- 給油量は基準ボードを超えないようにしてください。基準ボードを超えると浸み出しやすくなります。
- 燃料タンク内の燃料が不足すると、燃料ポンプが長時間作動し、燃料ポンプの正常な寿命に影響を与えます。

6. 乗車前の検査

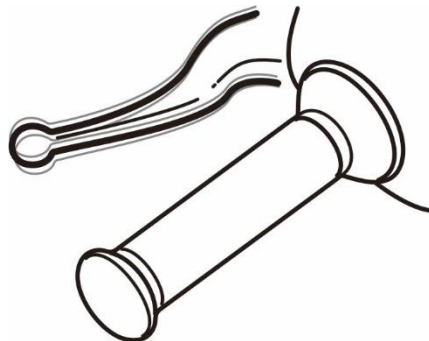
ハンドルの検査

- 上、下、前、後、左、右の動作に問題がないか。
- 動作に引っかかりがないか。
- グリップに衝突の跡がないかどうか
- 異常を発見した際は、お近くのKYMCO販売店で検査を受けてください。



ブレーキの検査、調整

- ディスクブレーキには調整の必要がありません。緩んでいる場合はKYMCOの販売店でブレーキシステムの検査を受けてください。

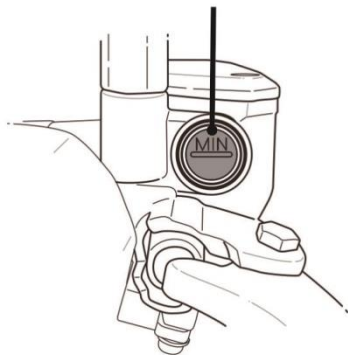


6. 乗車前の検査

ブレーキオイルの検査

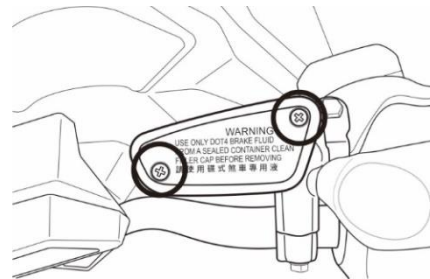
1. ハンドルを真っ直ぐにし、オイルタンク内のブレーキオイルを検査します。必ず上限と下限の記号の間であることを維持してください。
2. 油面が下限の位置標示(MIN)に近づいているときは、ブレーキの摩耗状態を調べてください。
3. ブレーキパッド、ローターが摩耗すると、規定の限度を超えていなくても、通常は検査窓から見えるオイルの量が減少します。販売店で検査修理を受けてください。

フロントブレーキオイル検査窓



ブレーキオイルの補充

1. ハンドルを真っ直ぐにし、ブレーキオイル貯蔵タンクキャップの2本の固定ネジをはずし、キャップを取り外します。
2. 推奨オイル（DOT-4規格）を貯蔵タンクの上限の目盛りまで注入し、再びオイル貯蔵タンクキャップの2本のねじで締めます。
3. ブレーキオイルは10000メートル毎もしくは年に一度交換してください。



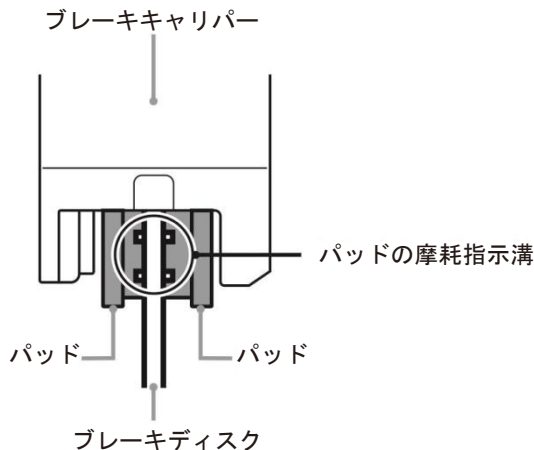
⚠️ ご注意

- 異なるブランド及び異なる仕様のブレーキオイルを混合して使用するとブレーキが故障し大変危険です。
- ブレーキオイルを補充する際は、布などで塗装部分を覆い、塗装表面を傷つけないようにしてください。

6. 乗車前の検査

前後のブレーキパッドの検査

ブレーキパッドの使用限度と検査



- ブレーキ効果は良好か？
- ゆっくり前進させて前後ブレーキの効果を確認します。

⚠️ ご注意

- ブレーキパッドは環境保護で規制された材質を使用しているため、使用中に軽い摩擦音が生じますがこれは正常な現象であり、使用性能に影響はありません。

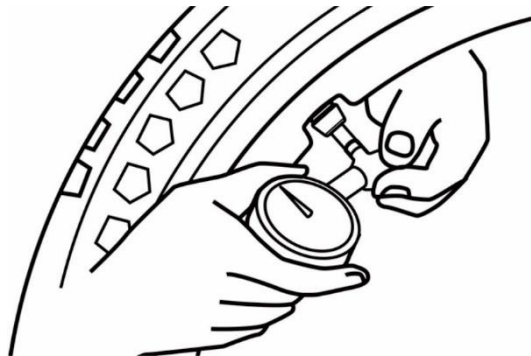
6. 乗車前の検査

タイヤの検査

タイヤと地面の接触状態と、タイヤ圧は正常かどうかを検査します。タイヤと地面の接触に異常現象が現れた際は、タイヤ圧計でタイヤ圧が正常かどうかを検査してください。

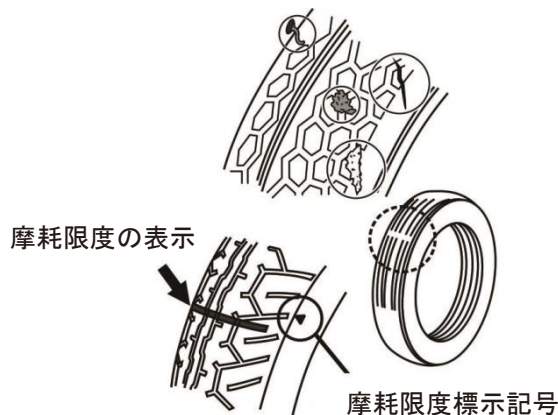
車が冷えている際のタイヤ圧の測定

	1人乗車	2人乗車
前輪	1.75 kgf/cm ²	1.75 kgf/cm ²
後輪	2.0 kgf/cm ²	2.25 kgf/cm ²




- タイヤの溝に金属片や小石が挟まっている際は、取り除いてから再度運転してください。
- タイヤに亀裂が出来たり溝の深さが摩耗したりした際は、新しいタイヤと交換してください。

(図面の矢印の指示をご参照ください)




6. 乗車前の検査

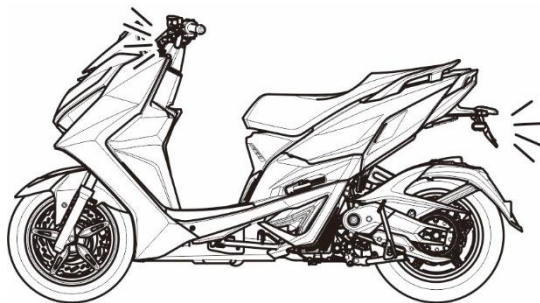
ブレーキランプの検査と調整

- メインスイッチを「」の位置に回します。
- 前後のブレーキレバーをそれぞれ引き、ブレーキランプが点灯するか確認します。

ブレーキランプに汚れや破損がないか検査します。

方向灯の検査

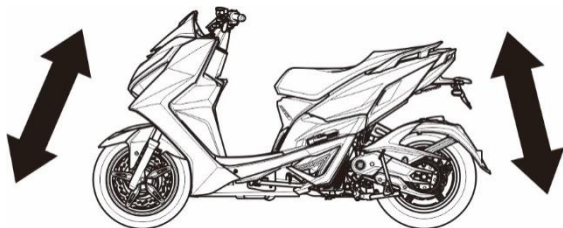
- メインスイッチを「」の位置に回します。
- 方向灯を操作して前後左右の方向指示灯及びメーター内の指示灯が点滅するか確認します。
- 方向灯カバーに汚れや破損はないか検査します。



6. 乗車前の検査

前後緩衝の検査

ハンドル、シートに重量を加え、上下に揺らし、動作は良好かどうかを検査します。




ヘッドライト、テールランプ、ポジションランプは点灯するか。

メインスイッチをオンにし同時にヘッドライト、テールランプ、は点灯するか、カバーに破損や汚れはないかを検査します。

メータは正常に表示されるか。

クラクションは鳴るか。

メインスイッチをオンにした後、「」の位置にし、クラクションボタンスイッチを押します。

バックミラーの角度は適切か。

座席に座って後方の位置を確認するとともに、破損や汚れがないか検査します。

ナンバープレートに汚れや破損はないか。

ナンバープレートに汚れ、損傷がないか検査し、確実に取り付けます。

排気ガスは正常か。

マフラーに緩みや騒音はないか検査します。

その他これまでの異常な現象が存在していないかどうか。

6. 乗車前の検査

定期検査

- お客様の貴重な車の安全で快適な運転のため、定期検査を受けていただくようお願いいたします。KYMCO販売店ではアフターサービスとメンテナンスを承っております。
- 検査時間及び検査項目については使用説明書をご参照ください。
- バイクを長期間使用していない場合も、定期検査を実施しなければなりません。

初回検査

新車お買い上げ後1か月以内、もしくは走行距離300キロメートル(km)に達したら、必ず検査メンテナンスを受けてください。

エアフィルターの検査

- 当機種のエアフィルターは紙製のものを使用しており、2000キロメートル毎に検査を受け、必要時には交換していただきます。
- 走行距離5000キロメートル毎に定期的に交換してください。

CVT駆動システムフィルターの検査

- 走行距離5000キロメートル毎に定期検査を行い、クリーニングするかフィルターを交換してください。

後輪駆動ベルトの検査

- 走行距離1000キロメートル毎に定期検査を行い、内部の埃や異物を除去してください。
- 亀裂や破損はないかを検査し、必要時には交換します。3000キロメートル毎にベルトの張力を確認し、仕様値以内でない場合は調整してください。

ご注意

以下の条件下でご使用の際は、こまめに清掃するか早めに交換してください。

- 常に雨天時に運転する。
- 常に灰や埃が多い劣悪な路面を運転する。

6. 乗車前の検査

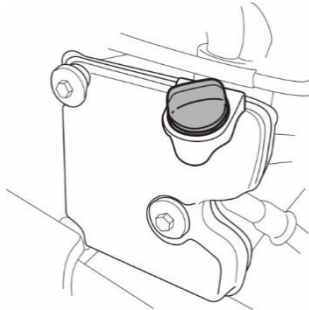
オイルの交換

<交換時期>

初回は300キロメートルで交換し、以降は1000キロメートル毎に交換します。

エンジンの優れた性能を保証するため、1000キロメートル毎にオイル量を検査し、不足している際は標準量になるまでオイルを注入してください。

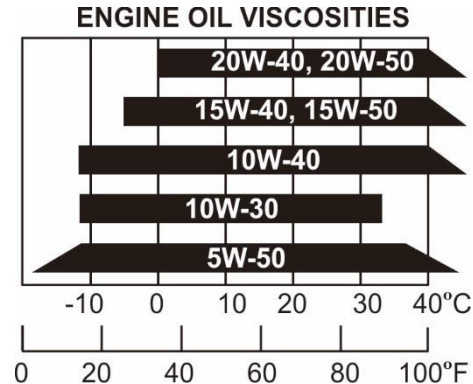
オイルの容量：分解時：0.9L 交換時：0.8L



⚠️ ご注意

- 使用頻度が低く、3か月の騎乗が2000キロメートル未満の場合、オイルは劣化しますので、劣化によるエンジンの破損を防ぐため、オイルを交換することをお勧めいたします。

オイル適用温度表



⚠️ ご注意

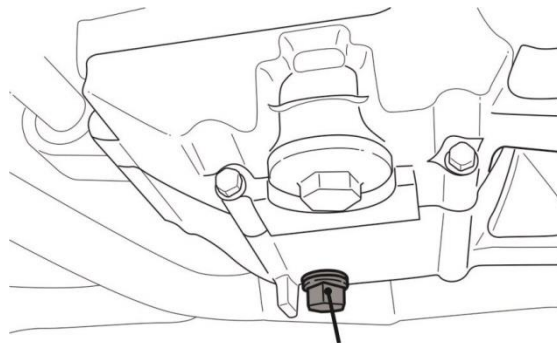
- 悪質なオイルを使用することがないように、交換時にはお買い上げの販売店で交換するようにしてください。

6. 乗車前の検査

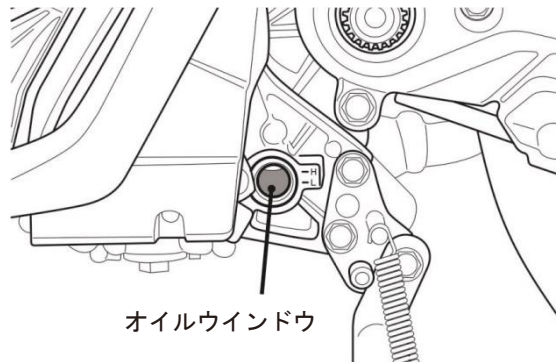
<交換時期>

1. オイル注入キャップを外します。
オイル放出用ボルトを外し、全てのオイルを流し出します。
エンジンの暖機運転後に交換するとオイルが流れ出しやすくなります。
2. オイル放出用ボルトをきれいに拭き、規定トルクで締めます。
3. 新しいオイルを注入します。規定量は0.8Lです。
オイルウインドウでオイルの量を確認します。
4. オイル注入キャップは確実に締め、フィルターはクリーニング後再度装着します。
5. エンジンを暖機運転した後、約10-20秒間運転を停止します。
再度オイル量を確認します。

オイル注入キャップ

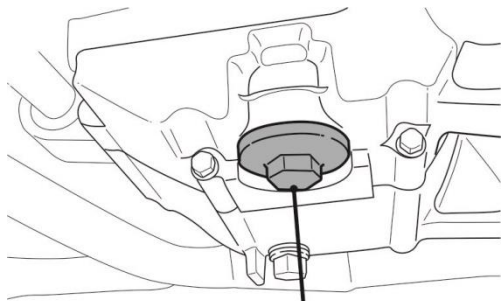


オイル放出ボルト



オイルウインドウ

6. 乗車前の検査



オイルフィルター

オイルフィルターは定期メンテナンス一覧表のスケジュールに基づきクリーニングします。

⚠️ ご注意

- 以下の条件下での使用はオイルが劣化しやすくなりますので、早めに交換してください。
 - 常に砂利道を運転する。
 - 常に短距離を運転する。
 - アイドリングの時間が比較的多い。
 - 寒冷地区で使用する。
- オイル補充時、オイル量は上限マークを超えないようにしてください。
- エンジンの故障を避けるため、ブランド、ランクの違うオイル、低品質オイルを混ぜないでください。
- エンジンが熱いときにオイルを交換する際は、皮膚の火傷にご注意ください。

オイル交換時の注意事項

- オイル量は多すぎても少なすぎてもエンジンの性能に影響を与えます。

多すぎると---

エンジンの運転、摩擦部の抵抗が増し、出力が低下して運転中の温度が上昇し、オイルの劣化を早めます。

少なすぎると---

エンジン運転時に摩擦部へのオイル供給量が減り、機器の摩耗、焼き付きなどの原因になります。

- エンジンの故障を避けるため、ブランド、ランクの違うオイル、低品質オイルを混ぜないでください。
- 市販の添加材を混ぜて注入すると、オイルを劣化させ、潤滑性能に影響し、エンジンの寿命を縮める可能性があります。

6. 乗車前の検査

スパークプラグの検査、調整

電極の汚染、大きすぎる隙間は点火の不完全性を招きます。

<清掃方法>

- スパークプラグクリーナーを利用するのが最適な清掃方法です。
- クリーナーがない際は、ニードルブラシで清掃できます。

<調整>

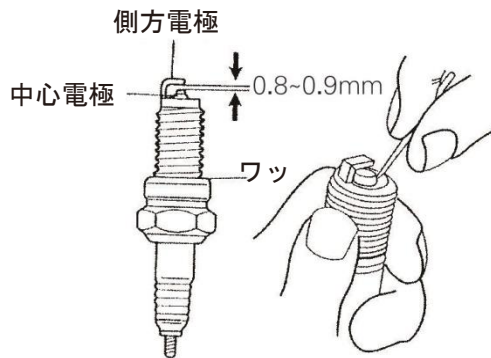
- スパークプラグの正常な隙間は0.8～0.9mmです。

(右図で示したとおり)

<指定スパークプラグ>

(NGK) CPR8EA-9

- 指定以外のスパークプラグはご使用にならないでください。



⚠️ ご注意

- エンジン停止後は熱いので火傷にお気をつけください。
- まずスパークプラグを手で締め、その後スパークプラグレンチを使用してきつく締めます。

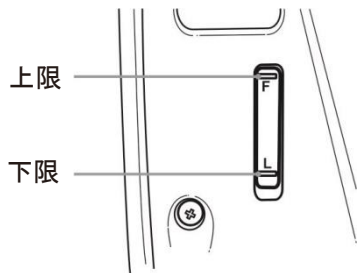
6. 乗車前の検査

冷却水装置の検査

1. バイクを平らな地面に停めて立てます。
2. 冷却水予備タンクの水が上限と下限の間にあるか検査し、水量が下限（Lの位置）に近い場合は冷却水を上限まで補充してください。

冷却装置の水漏れ検査

1. ボックス、パイプに水漏れがないか検査します。
2. バイクを停めた地面に水漏れがないか検査します。



⚠️ ご注意

- バイクの所有者は運転前に水タンクラジエーター又は水タンク前後の保護ネットに異物がないかを確認し、異物がある場合は取り除いてください、異物があると冷却機能が下がり、深刻な場合はエン

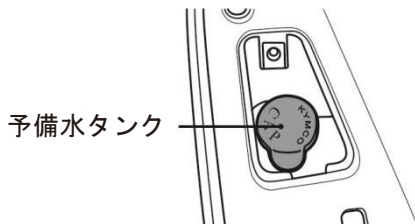
ジンを損壊する恐れがあります。

6. 乗車前の検査

冷却水の補給（予備水タンクへの注入）

1. 平坦な場所にバイクを止め直立させます。
2. 予備水タンクの蓋を開け（ねじと保護キャップを外します）、冷却水を上限の位置まで補充します。

冷却水の水位が大きく下がるのは異常現象です。



⚠️ ご注意

- 走行後は水温が非常に高くなっていますので、水タンクの蓋は開けないでください。
- 冷却液を混ぜる際は軟水をご使用ください。
- 低品質の冷却水は水タンクの寿命を縮めますので、特にご注意ください。
- 水タンクの冷却水は正常な状況では年に一度、もしくは10000キロメートル毎に交換します。
- 冷却水補充時は、適切な比率のクーラントを加え、冷却システムの性能を確保してください。

7.定期及び簡易メンテナンス、故障処理

注意事項

検査の結果クリーニング、調整、交換が必要な際は、定期検査記録表の説明に基づいて実施してください。

ご注意

メンテナンス時は安全に注意してください。

- 平らな場所で、車のメインスタンドを立てます。
- 適切な工具で作業を行います。
- エンジンは停止した状態で整備作業を行います。
- エンジン停止後は、エンジン本体、マフラーの温度が高くなっていますので、火傷にご注意ください。

7.定期及び簡易メンテナンス、故障処理

公害低減定期メンテナンス一覧表

車の安全の維持と寿命を延ばすため、また汚染物の排出を減らすため、定期検査&メンテナンスはしっかり行ってください。

排ガス管理システム及び定期検査メンテナンス項目及びスケジュール表

l: 検査、必要時にはクリーニング、潤滑、補足、修正又は交換を行う A: 調整 C: クリーニング R: 交換 T: 締め付け M: 修理メンテナンス D: 診断器による検査

項目	メンテナンス操作項目		メンテナンス距離												備考
	キロメートル又は月数のいずれか先に来た方	キロ数 月数	300 初回	1000 1	2000 2	3000 3	4000 4	5000 5	6000 6	7000 7	8000 8	9000 9	10000 10	11000 11	
潤滑システム	エンジンオイル	*	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
	オイルフィルター	*	C		C			C					C		
	オイルエレメント (当機種にはこのメンテナンス項目なし)	*		R				R					R		
	ギアオイル (当機種にはこのメンテナンス項目なし)	*		R			R					R			R
燃料システム	燃料ポンプ	*			I/C			I/C					I/C		
	スロットルバルブワイヤー	*			I			I					I		
エア供給システム	エアフィルター	* 備考3、4			I			R		I			R		I
	活性炭缶 (当機種にはこのメンテナンス項目なし)	*			I			I					I		
	CVTフィルター線	*						R					R		
	PCV蒸発制御バルブ	*			I			I					I		
	含有酸素センサー	*			I			I					I		
	触媒コンバーター	*			I			I					I		
駆動システム	カムチェーン	*			I			I					I		
	CVT駆動ベルト/ローラー/クラッチジャケット	*			I			I			M		I		
	後輪駆動ベルト	* 備考2	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	バルブクリアランス	* 備考4						I					I		
点火システム	スパークプラグ	*			I								R		
	点火ライソ	*						I					R		
エンジン管理システム	スロットルボディ	*						I					M/I		
	燃料ノズル	* 備考1、4			D/M			M/I		D/M			M/I		D/M
	アイドリングエアバイパスバルブ	*						D/M					D/M		
	エンジン温度センサー	*			D			D		D			D		D
	吸気圧力センサー	*			D			D		D			D		D
	点火コイル	*			D			D		D			D		D
ブレーキシステム	バッテリー	*			D			D		D			D		D
	ブレーキレバーの遊び	*	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	ブレーキオイル	*	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	ABS車輪スピードセンサー/読み取りディスク	*						M/I					M/I		
冷却システム	ブレーキパッド	*	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	サブタンク/冷却液	*	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	水タンクラジエーター/水タンク前部保護ネット	*	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	冷却バイブレーションコネクタ	*	I	I	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T
その他	車体の重要なボルト	*	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T
	タイヤ圧/タイヤ模様	*	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I

不定期メンテナンス

1. 点火システム: 明らかな連続性のある点火異常、エンジンの過熱、エンジンのエンストがある場合はメンテナンスと点検を行ってください。

2. カーボン堆積物の除去: エンジンの馬力が大幅に下がった場合、バルブ、ピストン、スロットルバルブ、アイドリングエアバイパスバルブ及び燃油ノズルに堆積しているカーボンを除去してください。

3. 駆動システム: 走行速度が明らかに下がった場合、CVT部品のメンテナンスと点検を行い、必要時には新品と交換してください。

4. 燃油ノズル: 長時間放置し使用していない場合、燃油ノズルに蓄積したカーボンとコロイドを除去してください。

5. 水タンクラジエーター/水タンク前部保護ネット: 1000キロメートル毎に検査とクリーニングを行い、走行場所が埃や雨が多い場所の場合、早めにクリーニングとメンテナンスを行ってください。

6. ABS車輪スピードセンサー/読み取りディスク: 5000キロメートル毎にメンテナンスと点検を行い、必要時には新品と交換してください。

7.定期及び簡易メンテナンス、故障処理

公害低減定期メンテナンス一覧表

車の安全の維持と寿命を延ばすため、また汚染物の排出を減らすため、定期検査&メンテナンスはしっかり行ってください。

排ガス管理システム及び定期検査メンテナンス項目及びスケジュール表

I: 検査、必要時にはクリーニング、潤滑、補足、修正又は交換を行う A: 調整 C: クリーニング R: 交換 T: 締め付け M: 修理メンテナンス D: 診断器による検査

項目	メンテナンス操作項目		メンテナンス間隔												備考
	キロメートル又は月数のいずれか先に来た方	キロ数 月数	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000	21000	22000	23000	24000	
潤滑システム	エンジンオイル	*	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	
	オイルフィルター	*			C					C				R	
	オイルエレメント (当機種にはこのメンテナンス項目なし)	*			R					R					
	ギアオイル (当機種にはこのメンテナンス項目なし)	*			R			R			R			R	
燃料システム	燃料ポンプ	*			VC					VC					
	スロットルバルブワイヤー	*			I				I						
エア供給システム	エアフィルター	*	備考3、4		R		I		R		I				
	活性炭炭 (当機種にはこのメンテナンス項目なし)	*			I				I						
	CVTフィルター線	*			R				R						
	PCV炭素制御バルブ	*			I				I						
	含有酸素センサー	*			I				I						
	触媒コンバーター	*			I				I						
	カムチェーン	*			I				I						
駆動システム	CVT駆動ベルト/ローラー/クラッチジャケット	*		M					M				M		
	後輪駆動ベルト	*	備考2	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	
点火システム	バルブクリアランス	*	備考4		I				I						
	スパークプラグ	*			I				R						
	点火ライン	*			I				I						
エンジン管理システム	スロットルボディ	*	備考4		M/I				M/I						
	燃料ノズル	*	備考1、4		D/M			D/M	C			D/M			
	アイドリングエアバイパスバルブ	*			D/M				D/M						
	エンジン温度センサー	*			D			D	D			D			
	吸気圧力センサー	*			D			D	D			D			
	点火コイル	*			D			D	D			D			
ブレーキシステム	バッテリー	*			D			D	D			D			
	ブレーキペーパの遊び	*		I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	
	ブレーキオイル	*		I	I	I	I	I	I	R	I	I	I	I	
	ABS車輪スピードセンサー読み取りディスク	*				M/I				M/I					
	ブレーキパッド	*		I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	
冷却システム	サブタンク/冷却液	*			I				I						
	水タンク/ラジエター/水タンク前部保護ネット	*		I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	
	冷却バイブライノコネクタ	*		I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	
その他	車体の重要なボルト	*		T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	
	タイヤ/圧/タイヤ紋様	*		I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	

不定期メンテナンス

1. 点火システム: 明らかな連続性のある点火異常、エンジンの過熱、エンジンのエキストラがある場合はメンテナンスと点検を行ってください。
2. カーボン堆積物の除去: エンジンの馬力が大幅に下がった場合、バルブ、ピストン、スロットルバルブ、アイドリングエアバイパスバルブ及び燃料ノズルに堆積しているカーボンを除去してください。
3. 駆動システム: 走行速度が明らかに下がった場合、CVT部品のメンテナンスと点検を行い、必要時には新品と交換してください。
4. 燃油ノズル: 長時間放置し使用していない場合、燃油ノズルに蓄積したカーボンとコロイドを除去してください。
5. 水タンク/ラジエター/水タンク前部保護ネット: 1000キロメートル毎に検査とクリーニングを行い、走行場所が埃や雨が多い場所の場合、早めにクリーニングとメンテナンスを行ってください。
6. ABS車輪スピードセンサー/読み取りディスク: 5000キロメートル毎にメンテナンスと点検を行い、必要時には新品と交換してください。

7.定期及び簡易メンテナンス、故障処理

バッテリーの検査

■ 当機種はメンテナンスフリーバッテリーを採用しています。

- バッテリーは検査補充をする必要はありません。

バッテリーの電圧検査：

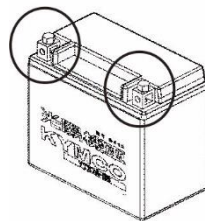
テスターを使用しバッテリーの電圧が12V以上かを検査し、電圧が低すぎる場合、バッテリーを充電します。

⚠️ ご注意

- 密閉式バッテリーは絶対に分解しないでください。
- 長期間使用しないとバッテリーは自ら放電し電力が低下します。車からバッテリーを取り外し、フル充電してから風通しのよい涼しい場所に置いてください。
- バイクを長期間使用しない場合、バッテリーのマイナス極を取り外してください。
- バッテリーの電圧が低すぎると、メーターパネル上のバッテリー指示灯が点灯します。必ずバッテリーを取り外しフル充電するか、KYMCO販売店で検査修理をおこなってください。

バッテリーパイルヘッドのクリーニング

- バッテリーのパイルヘッドが腐食している場合、バッテリーを取り外して清潔にしてください。
- 清潔にした後、バッテリーのパイルヘッドに適切なグリスをひと塗りし、再度バッテリーに取り付けてください。



⚠️ ご注意

- バッテリーを脱着する際に火気に近づけないでください。
- 脱着する際はメインスイッチの電源を切り、その後⊖極を外し、更に⊕極を外します。取り付ける際はまず⊕極を取り付け、その後⊖極を取り付けます。
- パイルヘッドナットが緩んだら規定トルクで締め直してください。

7.定期及び簡易メンテナンス、故障処理

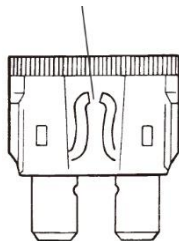
ヒューズの交換

- メインスイッチを切り、ヒューズが溶断していないか検査してください。
- ヒューズを交換する際は、規定の容量のものと交換してください。
- 交換する際はまず溶断の原因を調べてから交換してください。

● 洗車時はできるだけ強い水圧は避けてください。

ヒューズ仕様：15A、10A

溶断状態



⚠️ ご注意

- 電気製品（ランプ、メーター類）を交換する際は指定された仕様の部品を使用してください。
- 使用する仕様が合わないとヒューズが切れやすく、バッテリーに不均衡な負荷が加わります。

7.定期及び簡易メンテナンス、故障処理

エアクリーナー

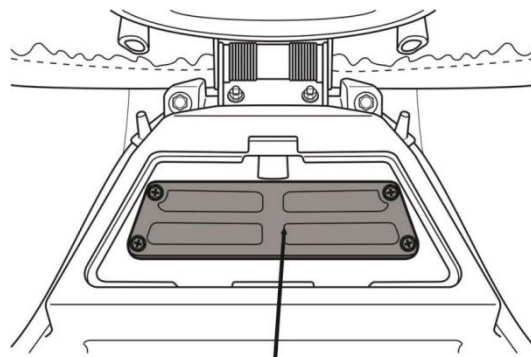
埃が多い場所では馬力が低下し、燃費が悪くなります。

<取り外し方法>

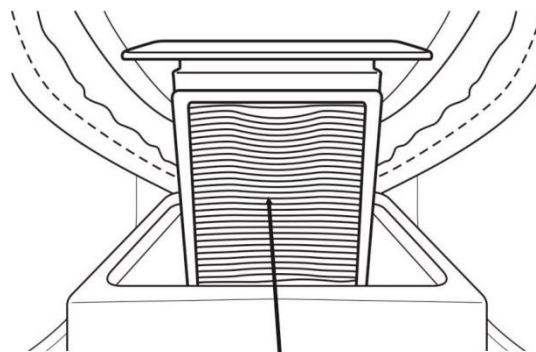
1. フィルターカバーの固定ねじを外します。
2. フィルターカバーを外します。
3. エアフィルターエレメントの固定ねじを外します。
4. エアフィルターエレメントを交換します。

<組立方法>

取り外しと反対の方法で操作します。



エアクリーナー



エアフィルターエレメント

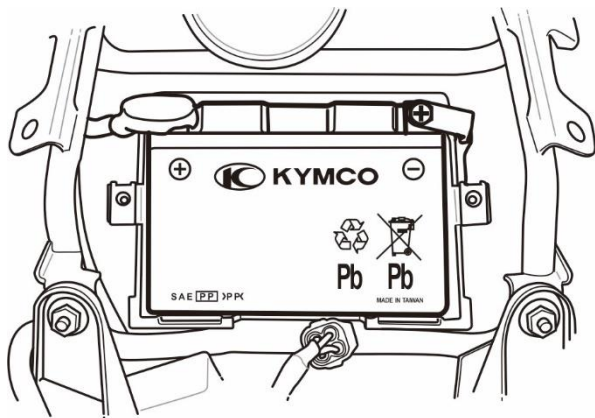
⚠️ ご注意

- エアフィルターへのエレメントの装着が不完全ですと、埃が直接エアシリンダーに吸い込まれ、摩耗を引き起こし、馬力が低下し、エンジンの寿命に影響を与えます。
- 洗車時はエアフィルターの起動不良を避けるため、エアフィルターに水がかからないようにしてください。

7.定期及び簡易メンテナンス、故障処理

注意事項：

1. バッテリーのメインスイッチがONの状態では配線を抜かないようにしてください。
2. ボルトのトルク値は0.2~0.3kgf-m(0.35kgf-mを超えないこと)です。修理用工具で締め付ける必要があり、きつく締めすぎるとボルトが折れたり、配線が抜けたりし、事故発生の原因となります。
3. 組立後はボルトの緩みやワイヤーがフレームに干渉していないか確認し、事故が起きないようにしてください。



⚠️ ご注意

車両を湿気の多い環境（降雨や洗車など）で放置したり走行したりすると、メーターパネルやランプシェード内と外部との温度差により一時的に曇る場合がありますが、これは特に問題ではありません。ただしメーター及びランプシェード内部に大量の水滴が付いたり水が貯まったりする現象が起きた際は、KYMCO販売店のサービスを受けてください。

7.定期及び簡易メンテナンス、故障処理

車両故障時；

走行中に故障が起きた場合、KYMCO販売店に修理を依頼し、純正部品との交換を推奨します。

エンジンが始動しない、走行中に停止するなどが起きた場合、まず以下の点を検査してください。

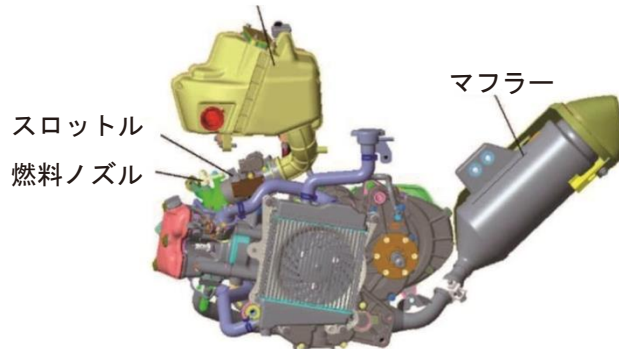
- ガソリンはありますか。
燃料計の指示針がEゾーンに近づいていたら、レギュラー規格以上の無鉛ガソリンを給油してください。
- エンジンの始動方法は正しいですか。
- その他部機械部分に問題はありますか。

8.環境機構の紹介とメンテナンス

排ガス制御システム：

当車種の排ガス排出制御装置は燃油噴射システムを応用し排出汚染を効果的に制御し、排気システムの三元触媒コンバーターを通して汚染を再転換することにより、超低排ガス汚染の効果を実現しています。

エアクリー



警告

マフラー外部は非常に熱いので、バイクを停車させる際は歩行者や児童が触れることがない場所に停めてください。メンテナンスを行うことで最高の性能を維持できます。

ご注意

1. 排ガス制御システムの正常な使用を保証するため、必ず定期検査とメンテナンスを行ってください。
2. 排ガス制御システムの正常な性能を確保するため、勝手に改装し、排ガス汚染に影響を与え処罰されることがないようにしてください。
3. 何かご質問がありましたら、当社販売店にお問い合わせいただくか、検査を受けてください。

8.環境機構の紹介とメンテナンス

排ガス制御システムのメンテナンス

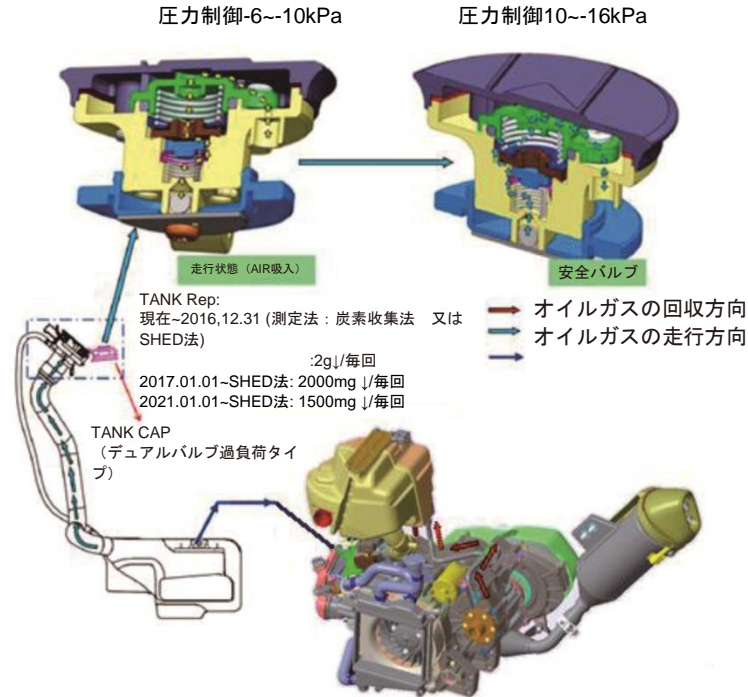
作業方法：

1. エアフィルターエレメントのクリーニングについては7-6ページの方法を参考に作業を行ってください。
2. エンジンオイルーエンジンの潤滑性能を最高にし、動作をより完全にするため、新車は300キロメートル、それ以降は1000キロメートル毎に一度オイルを交換してください。
3. ガソリンー点火システムの性能は燃焼効率に影響を与えます。必ずレギュラー規格以上の無鉛ガソリンを使用し、有鉛ガソリンは絶対に使用しないでください。（有鉛ガソリンを使用すると、マフラー内部の触媒コンバーターが老化し故障します）

8.環境機構の紹介とメンテナンス

蒸発排出制御システム (E.E.C) の照会

排ガス蒸発排出装置は、前置式オイルタンクとスロットルボディから蒸発するオイルを収集し、オイルガスが大気中に放出され大気汚染をもたらすのを防ぐために使用されます。



8.環境機構の紹介とメンテナンス

蒸発排出制御システム（E.E.C）の検査

1. 当該車種の汚染排出値は、法規基準を満たしているため、調整可能なパラメータの設定は任意に調整しないでください。
2. 蒸発排出制御システム装置の真空パイプラインは、取り外したり改造したりしないでください。
3. 汚染排出を下げるため、ニュートラルでアイドリング状態の場合、アクセルを往復させないでください。
4. 定期メンテナンスの他に、明らかな異常(起動不良、黒煙の排出...など)を発見した際は、直ちに当社販売店で検査又は修理を行ってください。
5. オクタン価92以上の無鉛ガソリンに限り使用し、汚染防止の当初の使用機能を保証してください。
6. 排ガス排出制御システムメンテナンス項目表の記載を参照しメンテナンスを行ってください。

9.仕様表

SA35AA/AC/AF

項目	仕様
エンジン型式	SA35
排気量	175.1 c.c. (mL)
内径×行程	Φ62.0mm X 58.0mm
圧縮比	11.2
変速方式	CVT
クラッチ	乾式遠心式
点火方式	ECU全晶式点火
起動方式	電気起動
燃料タンク容量	7.2L
オイル全容量	0.9L
全長	1960mm
全幅	755mm
全高	1115mm

項目	仕様
軸間距離	1400mm
車両重量	141(SA35AA)/143kg (SA35AC/AF)
タイヤ	前110/70-13 後ろ130/70-13
使用燃料	無鉛ガソリン
バッテリー容量	12V 9.1Ah
スパークプラグ	NGK CPR8EA-9

空の重量：ガソリン加えず。その他は全てあり
(水、オイル、工具及びバックミラー)。

以上の仕様は実車を基準とします。

KRV 180 シリーズ使用説明書

光陽工業股份有限公司

第八版-2021年9月

無断複写、転載を禁じます

台湾で印刷



**「台湾地区で販売されている光陽製品は、
一律台湾で設計、製造、品質管理されています。」**

**KYMCO's products sold In Taiwan are all designed,
manufactured, and quality controlled In Taiwan.**